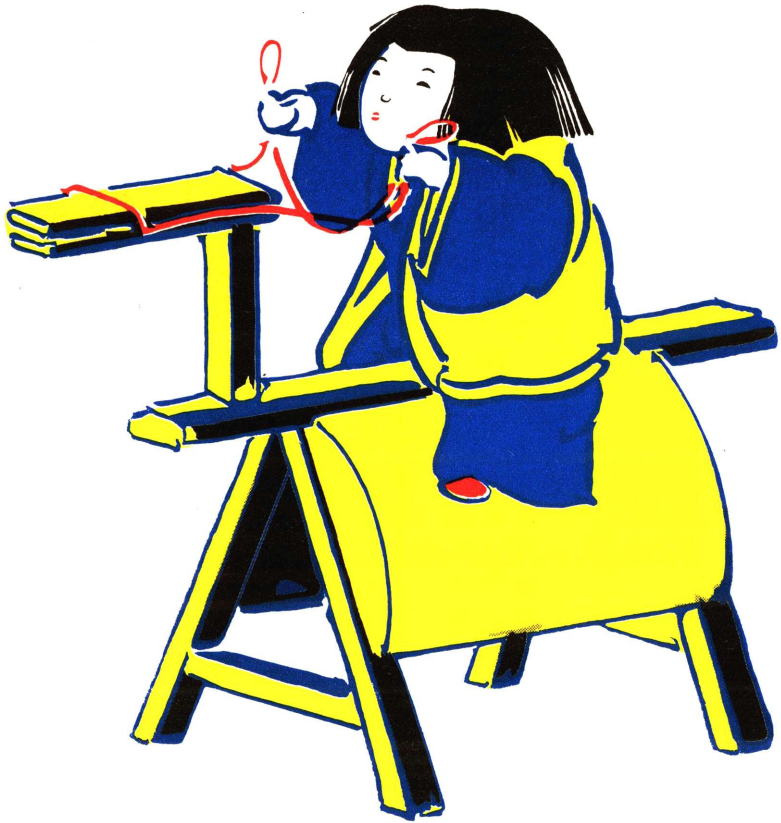


幼見之教育



號六第 號月六 卷二十四第

內校學範師等高子女京東

會協園稚幼本日

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編 (五版)

改訂 增補 系統的保育案の實際

定價 金壹圓參拾錢 送料 金八錢

初版以來廣く參考の資料とせられた本書は、時局下幼兒保育の再認識と、特に國民學校の新制に對する用意の必要とから到底舊版のまゝに止まることを許されなくなりました。全體に互る改訂と増補を以て茲に此の新版を供する次第であります。

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集 (四版)

菊版三五〇頁 定價金壹圓五拾錢
送料 內地金拾五錢
臺灣、朝鮮、滿洲金貳拾錢

日本幼稚園協會編

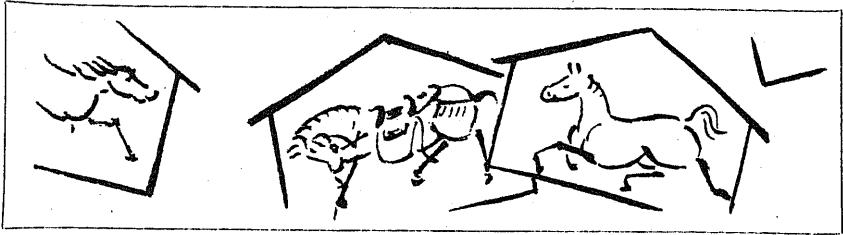
幼稚園唱歌選集

B列四號五〇頁
定價金壹圓七拾錢
送料 金八錢

幼兒の教育 (月刊)

一ヶ月 金參拾五錢 送料金一錢
一ヶ年 金四圓貳拾錢 送料共

大東亞戰爭必勝完遂



第四十二卷 幼兒教育の第六號

目次

戰時國民幼稚園(五).....	倉橋惣三(一)
講習 國民學校理科數科の實際(その六).....	堀七藏(二)
教養 萬葉に於て日本の感情を見る(六).....	石井庄司(八)
七月の保育	
生活訓練.....	倉橋惣三(三)
自由遊戯.....	上遠文子(三)
遊戯.....	古澤靜子(五)
觀察.....	清水光子(八)
談話.....	安村ふさ(九)
手技.....	及川ふみ(三)
誘導保育.....	菊池ふじの(二四)
この頃あの頃.....	留岡よし子(二六)
歩きませう.....	古澤靜子(二七)
七月の園藝.....	大岩金子(三)
各地幼稚園 大阪御津幼稚園・宮城女師附屬幼稚園.....	富村はま子(四)
たよ 講習 兒童心理學(五).....	木村豐女(四)
牛島義友(元)	
幼兒の母.....	(三)

健康第一(題言)——幼稚園から——とちどうし(倉橋惣三)——子供向きお菜
 (佐々木理喜子)——六月の衛生(齋藤文雄)

第三回保育問題研究發表會

趣旨 大東亞戰後の建設は次代を擔ふ皇國の幼兒に期待する處が大であります。その幼兒の保育に當るものは、自らの使命に光輝ある歴史的意義を信念をもち、たゆまぬ努力向上にいそしまねばなりません。われわれはこゝに第三回の研究發表會を開催し、日頃の實踐、研究の結果を互に交換し、切磋琢磨したいと存じます。汎く保育關係者の参加を切望する次第です。

一、期日 七月二十五日(土) 二十六日(日) 二十七日(月)

三日間

午前八時より午後四時まで

二、場所 東京市麴町區三年町一番地 社會事業會館(市電・地下鐵 虎ノ門下車)

三、會費 三圓 但し會員は半額

四、申込 七月二十日までに會費(振替貯金を用ひてほしい)を添へて本會宛申し込むこと

五、後援 恩賜財團 愛育會愛育研究所

財團法人 中央社會事業協會社會事業研究所

財團法人 國民生活協會生活科學研究所

六、日程 第一日 午前

開會式

講演 大東亞戰と皇國幼兒教育

大政翼贊會生活動員本部長

村松久 義氏

七、研究發表に就いて

研究發表表に就いて

研究發表表もいつても日常實際に行つてゐることを纏めて報告して下されば結構です。御申込下されば内容に應じて當方にて適當な部會を編成し發表していただきます。

研究發表表は一人十五分前後、挨拶は抜きにして事實を重んじて下さい。

研究發表申込は七月十五日まで發表要旨を千字以内に認めて提出して下さい。

發表された研究は適當に取纏めて發刊する豫定です。

八、事務所移轉

本年四月法政大學兒童研究所から左記へ移轉しました。

東京市淀橋區下落合壹丁目四百九拾貳番地

財團法人國民生活協會生活科學研究所内

保育問題研究會

振替東京六七七五番

振替東京六七七五番

振替東京六七七五番

保育問題研究會

振替東京六七七五番

戰時國民幼稚園

——(五)大國民の性格——

倉橋惣三

國民幼稚園の目的が國民自覺への根柢を培育するにあることは言ふまでもない。しかもその自覺は、假りに、たゞ自己への凝視に止まり、狹隘な團結に偏するものであつてはならない。狭い心は小さい心がある。皇國民は大國民でなければならぬ。況して、大東亞新秩序の指導者を以て任ずる、之れからの日本人として、狭い性格こそ禁物である。大國民的の性格の所有者でなければならぬ。

日本人は、その本來の素質に於ては、融和、寛容、ひろく、のびやかな性格である。之れは八紘一宇の大理想に於ても、文化渾成の歴史の事實に於ても、疑ひなきことである。しかしまた、海を以て他と隔離の位置にある地理性からも、武力鬭争に劇しからざるを得なかつた國內事情からも、その本來の性格が伸びくゞ發展するさいふよりも、自己中心的狹隘性に傾き來るの嫌ひが無いはなかつた。明治日本は、その閉鎖性を開き放つて、活潑なる文化渾成のひろやかさを展開したが、時に受容のひろさに走つて、自主性を逸するの趣きが無いさは言へなかつた。閉づれば他を排し、開けば己を失ふは、往々にして陥る弊である。それが、自主包容の大國民性を發揮し得る點に於て、實に今日の昭和日本の如きはないのである。

この時に當つて、兒童に眞の大國民の性格を啓培教養することは、國民教育の切なる必要であると共に、大いなる可能である。國民學校の本旨として、大國民への教育さいふこが強調せられてゐる。國民練成は大國民練成であることを忘れてはならぬさせられてゐる。その國民學校の基礎段階にある國民幼稚園の保育本旨が、亦此の點になければならぬことは、言を俟たないところである。

幼児期教育は、性格の基調の方向づけに於て有效させられ必須させられてゐるのであるが、その中でも、性格の廣狹の方向づけに對して、恐らく最も力強い影響を與へるものであらう。此の時期に狭く癖づけられた性格を、後に至つて廣いものに向け直すうとすることは、不可能ではないにしても、非常に困難である。狭さは狭さを容易として、その方向に慣れるものである。さなきだに、屢々狭くならう狭くならうとする性格の偏りに對して、之れに廣さの方向を充分に與へることは、幼児期教育の、最も主要な任務でなければならぬ。而して、その爲の工夫は種々であらうが、保育者その人の性格が、大國民的でなければならぬことは、必須の先決である。

國民學校理數科の實際 (その六)

東京女子高等師範學校附屬國民學校主事

堀 七 藏

一、
次に理數科算數指導上の留意點について説明することにします。理數科算數の指導に於ては既に述べた七項に互る理數科指導上の注意事項を常に念頭に置かねばなりません。が尙ほ算數の特色を發揮するため、次の諸點にも留意せねばなりません。

第一には、事物現象の關係を明らかにすることの指導に重きを置かねばなりません。

既に述べたやうに、理數科算數は既に出來上がつてゐる抽象的な數學、その初歩を教へるものではありません。理數科算數では事物現象を考察處理してその本質を捉へ、數理をつかみ、更にそれを發展させるのでなくてはなりません。ところが事物現象は常に變化し又相互に關聯して存在してゐるのであります。それで個々の事物現象を單に靜的に考察するのではなく、その變化に着目して動的に捉へ、そ

うしてその相互の關係を知らなくてはなりません。例へば數觀念や圖形の觀念は箇數や圖形を動的に見るこゝによつて養はれます。それで事物の數のふえたり減つたりするのを觀察させ、實際に數へるこゝによつて結果を求めさせ、數へ方に習熟させると共に加減計算の基礎をなす事實に慣れ親しませるために「數の増減」の教材を課するのであります。また形を作らせるこゝによつて形、量に關する直覺を一層明確にし、且つ工夫創造の精神を養ふために「形、量の工夫」さいふ教材が選擇せられるのであります。

また數理は事象間の關係(この關係にはいろいろありますが空間關係、時間關係などは算數の對象となる主なものであります。)を簡單化し一般化し、抽象化して捉へ得られるのであります。例へば函數關係圓の面積は半徑の自乗に正比例するもので、圓の面積は半徑の函數であり、圓の面積 $\frac{1}{2}$ 半徑 $\frac{3}{2}$ は函數關係があるのであります。相關關係(二

つの事象の間の統計的關係、換言すればそれ等二つの事象が如何ほどの程度に於て類似するかを測ることをこの二つの事象の相關關係、或は類似關係を測るさいふのであります。すの理解の如きは、この意味に於て重要なのであります。しかもかやうな關係が明らかになれば、それによつて事物現象の將來の見通しは出来るし、更に發展をはかることも出来るのであります。

ところがやゝもするに算數では定義や規則を教へ、一定の條件を與へて、それから論理的に結論を導き出すことを仕事とするかのやうに考へられ勝ちであります。そしてその訓練として、必要にして十分な條件を具へた問題を課し、範例を授けて、これを模倣して問題を解き答が合致すればよいといつた考へ方をとり易いのであります。従來の算數は専ら上に述べたやうなものであつたが、理數科算數では、その任務から考へるに、かやうな訓練が目的ではありません。實際の事物現象はかやうな作り上げた問題のやうに單純なものではないのであります。そこには數多くの條件が含まれ、それを考察して得られる結論も、立場のさり方、條件の選び方によつて種々な場合のあり得るのが普通であります。かやうな現實に對して如何に處すべきかの訓練を行はなくてはならないのであります。即ち事象に直接して自ら問題をみつつけ、自らこれを解く、換言すれば立場々々

によつて最も適切な條件を選んで、それを満たす結論を導くやうな訓練をすることを建前させねばならないのであります。

第二には持久的に思考し究明する態度を養ふことに努めねばなりません。

算數で事象の中にすぢみちを見出し、又、そのすぢみちに従つて事象を考察するには周到にして慎重な考慮を要するのであります。又或る條件から結論を導くにも一歩々々推理して行かなくてはならないのであります。行きつまりに到達したやうな場合でも、それまでにたぎつて來たところを檢討し、更に工夫をめぐらすに、行きつまりを打開するにこゝが出来るのであります。けれども難關に出合つて直ぐに放棄するやうであつては正しい結論を得るにこゝも出来ず、または新な發展をするにこゝも出来ません。それで常に解決しなくては止まないさいふ旺盛な氣魄を喰ひ下つて考へぬく粘り強さを以て學習させなくてはならないのであります。かくすれば正鵠な結果にも到達するにこゝが出来、その時の喜びも感得するにこゝが出来、かやうな態度が愈々身につくにこゝになるのであります。國民學校のこの教科科目よりも理數科算數に於ては、この持久的に推究する態度を養成するにこゝが出来易いのであります。算數に於ては各教材毎に持久的に推究すべきところが多く、兒童各自が推究

するに困難を感じるほゞ正鵠な結果を得たときの喜悅が大であります。到底兒童の力で齒も立たぬこいふ難問題ではいけないけれども兒童が努力すれば解決し得るが如き教材を精選せられてゐるのであるから、常に持久的に思考し究明する態度を養ふやうに指導せねばなりません。

第三には、數理的技能の基礎的なものは反復練習させ應用を自在にすることが大切であります。すべて技能は反復練習しない自身につかないのであります。算數で練磨すべき技能の基礎的なものとしては計算、測定、測量、作圖等であります。算數の目的に於て特に「數理的處理ニ習熟セシム」にありますが、それは是等の技能であります。そして測定、測量、作圖に於てはそれに要する機械、器具の取扱に慣れさせねばなりません。例へば重さの測定には秤、温度の測定には寒暖計、距離や高さの測量にはそれ々、測量の機械、作圖には定規、コンパス等の取扱に慣れさせねばならないのであります。

計算は數理的處理の重要なもので、算數に於て最も重要な技能であります。しかし計算が算數に於ける唯一の技能ではありません。従來の算術では専ら計算に習熟せしめることを目的としたが、理數科算數では計算だけでなく、測定、測量、作圖等も基礎的な技能として重視すべきであります。さりとて計算に習熟させることを輕視してはなりません。

せん。算數全體に於ける計算の地位を正しく判断し、その範圍程度を考へて指導に當らなくてはならないのであります。そしてその範圍程度に於ては、正確にして迅速で、十分實用に適するものたらしむべきことは勿論であります。

國民學校に於ては計算の方法として暗算・筆算・珠算の三通りを指導するのであります。ところがこの三者は全然別物のやうに考へられ勝ちであります。けれどもそれは一つの數理に基づく計算の三つの相にすぎないのであります。この一體三相の計算技術の本質をよく理解し、それ々の特色を發揮して實用に役立てるやうに修練させることが肝要であります。

第四には實踐指導を重んじ、特に生活に計畫性をもたせるやうに努めねばなりません。

國民學校教育全般に亘つて生活上の實踐指導を重んずべきであるが、特に理數科に於ては一層この點を強く考へられなくてはならないのであります。それで理數科の要旨に於て、「正確ニ考察シ處理スルノ能ヲ得シメテ生活上ノ實踐ニ導キニ云々」にあるわけであります。ところが従來、やゝもするに、理數科殊に算數では頭を練るこいふ考へから、抽象的な論理を弄ぶやうなこゝになり易いのであります。勿論數理を追求し會得するこゝは、卑近な日常生活の實際行動を超えて意義のあるこゝはありますが、國民學校で指

導する算数の大部分は實踐にまで持來すことによつて、始めてその目的を達成するものといつてよいのであります。

生活上の實踐に於て特に重要なのは、計畫性ある生活をなすやうにすることでありませう。行動の前に計畫を立て、それに基づいて實行することが肝要であります。國家が一體的な活動をしなくてはならぬ現在に於ては、國民各自も自己の生活を計畫的に營むやうに心掛けなくてはならないのであります。それで國民學校では、兒童がその生活を計畫的に營むやう早くより修練せねばなりません。そして計畫を立てるには、數量的に周到な調査や、それに基づく研究の必要である場合が少くないのであります。こゝに算数の指導が活躍すべき部面がある譯であります。勿論、事實は計算通りに行かないし、計畫通り運ばないこともありますが、そのときには再吟味をなし、更に新たな計畫を立て、實行して行けばよいのであります。單に數量的根據に立つだけでなく、それと同時に可能な種々の場合を考慮に入れて最善の計畫を立てること、計畫を立てたらさし／＼實行に移して行き、支障を來たしやうであつたら、早くその見通しをつけて是正して行くやうな態度を養ふことに努めなくてはならないのであります。かくして算数で計畫性をもたせる修練をなさしめることによつて生活全般に亘つて計畫的に行動をするやうな態度が涵養出來るのであります。

二

以上は算数全般に亘つての指導上留意すべき事項でありませう、更に低學年主として(初等科第一、二學年)では、兒童の特質に鑑みて次の事項に注意すべきであります。

第一には數・量・空間の既成觀念の指導にさらはれることなく、事物現象に働きかけさせることを主とせねばなりません。

やゝもするに、算数は數・量・空間に關する觀念、知識を得させ、計算の技能を磨くものであると考へ、出來るだけ、早く、事物から抽象した數・量・空間についての指導に入ることがよいと考へられ易いのであります。特に數の方面に重きを置いて、型にはまつた問題を作り上げて答を求めるところを要求し、數の計算を練習させることを以て算数指導の大部分と看做す傾向に陥り易いのであります。これは大なる誤りであります。勿論高學年になれば抽象化された數や圖形について論理的に思考させることも必要であります。けれども低學年に於ては、實際の事物の考察處理によつて兒童の心に芽生えて來る數・量・空間の觀念に培ふことが肝要であります。しかもこれが第一の目的ではなく、事物を正確に考察し的確に處理することの修練こそが最も大切な仕事であるのであります。それで低學年の算数では事物現象に働きかけさせることを主とせねばなりません。

第二には、數・量・空間をはつきり分離して指導しないことが必要であります。

一體・數・量・空間の觀念は事物の考察處理によつて生ずるもので、初めは混沌としてゐるのであります。それが事物の考察處理をなすことによつて次第に明確になつて行くのであります。例へば物の分量は箇數でも、又、物の數はその配置でも、一つのものゝ見方の相違で分かれるのであるから、兒童の對象に對する全體的な直覺を重んじて指導することが大切であります。教師が最初から數・量・空間を分離して考へて指導するやうでは兒童の觀念を自然にのばすことにはならないのであります。それでカズノホン一でも二でも、數量・空間をはつきり分離して指導することをさけてあります。

第三には兒童の心身全體の活動を盛ならしめるやうに努めることが肝要であります。心身を一體としての教育は國民學校の根本的な狙ひ所であります。理數科は理知的の方面の修練を主とするけれども、それは情意の方面も切離して考へてはならないのであります。殊に知情意未分化の低學年兒童の特質に鑑み、全心身の活潑な働きを促すことに努めねばなりません。

ところが、ややもするに、算數であるからといふので、折角、花や蟲を對象にしても、その美しさ、かはいらしさ、

面白さなごを味はせないで、數はいくつか、大きさはごうか、ごのみ問ふやうでは、兒童の活潑な心の働きは望まれないのであります。たゞ、數や形でも、それに結びつく美しさ、面白さが伴なつてこそ、生きたものとして兒童の心をうつのであります。また算數であるからといふので、所謂合理的な方面を強調しすぎ、論理的な指導に流れ易いのであります。けれども低學年の兒童はそれに堪へ得ないことが多く物に即して情意を一體で、全體的な判断をする傾向の強いことを十分辨へて指導しないに、兒童の働きが盛にはならないのであります。尙ほ低學年の兒童は、言葉で説明せられても理解することに困難を感じたり、又自分でわかつてゐても、それを發表することが出来ない場合が多いのであります。その兒童に「わかつたか」「わかつたらう」なごを説明をおしついたり、「さあ言つてごらん」なごを發表を強ひるのは、兒童の活動を鈍らさばかりではなく、却つて算數の學習を厭ふやうになることさへあるのであります。それよりも行動を通して理解させ、それが行動に現はれるやうに努める方がよいのであります。かやうにして始めて心身を一體とした修練が出来るのであります。尙ほ心身全體の活動を盛にするためには、兒童が必要に興味を感じて、自發的に働きかけて行くやうに導くべきことはいふまでもないのであります。しかし教師が「これ

は大切である」さか「このこは大變に大切である」さかいふやうに必要を強調することは、兒童が必要を感じる所以ではありません。またこれは「大變に面白い」を教師が兒童に興味を強ひても駄目であります。兒童が直に必要な興味を感じずるやうに仕向けることが緊要であります。それには兒童をして心身全體の活動をさせることが大切であります。心身全體の活動によつて必要に興味を感じずるものであり、必要に興味を感じれば一層心身全體の活動が旺盛なるものであります。

幼稚園の遠足の日

—— 附屬農園久米川へ ——

倉橋 生

ほんの近き郊外へなぞゆめいひそ

リユクサックにいでたつ子等に

けふこそは雨も降らじな火もふらじ

幼児部隊の進軍の朝

(空襲がなくてよかつた心)

子らと共に野みちをゆけば靴が鳴る

五月の空はにこやかに晴れて

父や兄は戦のにはにりますなり

朗かにゆけ遠足の子等

事もなく歸り著きけり若き保姆の

日やけの頬にほっせせる色

萬葉に於て日本的感情を見る (六)

四、自然に親しむ

今年四月のはじめ北支を出發し、滿洲・朝鮮を経て内地に歸つてきた方の話に、「日本さいふころは、さうしてこんなに美しいのでせう。實にありがたい國だ。」といつて新緑の東京を賞め稱へてゐました。いつも見てゐるものは、その美しさ、良さに慣れて、ありがたさが分らなくなるのでありますが、たま／＼他處から歸つてきたやうな方には、よくわかるらしいのであります。さう思つて、自分の廻りのものに眼をやつてみますと、銀杏の若葉でも、楓の若葉でも、また萩の新芽にも、たまたらない親しさを覺えるのであります。ところが、萬葉の歌人たちは、既に千二百年のむかしに、この日本の自然に親しみ、その特徴を歌に詠みあげてゐるのであります。

わが宿の萩のうれ長し秋風の吹きなむ時に
咲かむと思ひて

この歌は、卷十、秋の雜歌に入つて居りますが、夏の萩

東京女子高等師範學校教授

石 井 庄 司

の若葉を詠んだものと思はれます。「萩のうれ」は、萩の若い枝さきさいふころで、みづみづしい葉の様子も眼に見えるやうであります。これは作者のわからない歌でありませんが、多分女性ではないかと思ひます。わが家の庭に萩を植ゑて、それに親しみ、朝夕に眺めてゐたものと思ひます。秋になつて萩の咲いてゐる有様を賞めるのは、それはあたり前のことではありますが、この歌はまだ秋にならない中から注意してゐるのでありまして、まことに珍しい歌と思はれます。かういふ歌に萬葉人の自然に親しむ様子がうかがへるのであります。

五月山卯の花月夜ほみこぎす聞けさも飽かず
さつきやまう はなづくよ

また鳴かぬかも

これも卷十の歌で作者はわかりません。「五月山」は五月頃の山さいふころ、「卯の花月夜」は卯の花の咲いてゐるさきの月さいふころで、今の「うつき」、白い花をつけるうつき、その上に照る月さいふころで、まことに美しい言葉で

あります。そこへもう一つ初夏の鳥を以て名高いほこぎすを出してきまして、いくら聞いても飽きない。もつこ鳴いてほしいものだといふ意味の歌であります。ほこぎすを詠んだ歌は、萬葉集には澤山あります。ずるぶん愛好したものと思はれます。これは更に平安時代に及んでも衰へず、ほこぎすを詠み込んだ歌は實に多數にのぼります。さういふ數多いほこぎす讀歌の中でも、この歌は相當のものと思はれます。殊に「五月山卯の花月夜」にほこぎすの鳴いてゐる環境が自然をよよく出してきてゐるのはよいと思ひます。かういふものを鑑賞し得たのが萬葉人でありませう。

青柳の張らる河門に汝を待つこ清水は汲まず立ち平らすも

卷十四、東歌であります。作者はやはりわかりませんが、草深い關東の野に育つた、若い女性の作と思はれます。青柳の芽の張つてゐる河門——河の兩岸が狭く迫つてゐるころ——のあたりで、あなた様のお出でを待つて、清水を汲みにきたやうにして立つてゐますが、いくらしもお越しがたないので、私は自分の立つてゐるころを踏みならしたこですといふので、いささか愛する人への恨み言のやうであります。こころで、「青柳の張らる河門」をいふ言葉が、みんなにこの歌の趣を深くし、また作者の心情をも

豊かにしてゐるこであります。かういふ自然を一枚になるこいふこころに、名もなき萬葉歌人の特徴があらはれるのであります。これこそ我々日本民族の特質を以てして差支がないと思ひます。

以上無名作家の歌ばかり見てきましたから、次は専門の歌人の作に移りませう。

玉藻刈る敏馬を過ぎて夏草の野島の埒に船近づきぬ

これは卷三に出てゐる柿本人麿の歌であります。敏馬は、今の神戸の東方、西灘あたりの海岸だといはれて居ります。萬葉集の他の歌には「敏馬の浦は朝風に浦浪さわぎ」か「島つたひ敏馬の埒を漕ぎためば」か歌はれて居ります。野島の埒は、淡路の津名郡野島村で、岩屋の西にあたる海村であります。同じく人麿の作に「淡路の野島の埒の濱風に妹が結びし紐吹きかへす」をいふのがあります。

「玉藻刈る」は一般に海邊の地名にかゝる枕詞であります。この歌では實際、海岸で美しい藻を刈り取つてゐたのではないかと思はれます。また「夏草の」をいふのも「野島」の「野」にかゝる枕詞ではありますが、實際は夏草の繁る頃であつたので、實景をも兼ねてゐるのかと思はれます。一首の意味は、美しい藻を刈る敏馬の浦を過ぎて、自分の乗つてゐる船は、夏草の野島の埒に近づいたといふのであります。一首の中に二箇所も地名を詠み込み、それに枕詞を

二度も使ひ、全く珍しい歌であります。ところが、この歌には船旅の氣持のよさや、海岸の美しい景色なきがしつかり詠みあげられてゐるのであります。人麿が難波を船出して、海岸傳ひに敏馬の浦を過ぎ、西へ向かつて行つたのであります。今日、西から東へ来るまきにもかういふ感がありました。私は先年五月の中旬夜に別府を出發し、瀬戸内海をすぎて、朝に淡路の島かげを通りましたが、「夏草の野島の埜に船近づきぬ」こいふ感——胸のまきめくを感じました。これは千古に輝く絶唱であり、人麿の作の中でも優れたものと思はれます。

ものゝふのやそ宇治河の網代木あむらぎにいさよふ浪のゆくへ知らずも

これも卷三にある柿本人麿の作で、人麿が近江國から大和の國へ来るまき、山城の宇治河のほとりて詠んだ作だこいふことが記してあります。「ものゝふのやそ」は、宇治河にかゝる序で、ものゝふは朝廷に仕へた人達で、八十伴緒さもいひました。その百官の氏々が多いまきいふので八十氏まつづけ、その「氏」を「宇治河」の宇治にかけた言ひ方であります。歌の意味は、宇治河の網代木にせかれて、暫く淀んでゐる水がやがて流れて行方が知れずなつてしまふこいだこいふのであります。人麿が宇治河のほとりに立つて、水の様子を見守つてゐて對した感慨であると思ひます。こ

れは宇治河の實景を詠んだものでありますが、歌の底には世の中の無常を嘆くこいふ心持も籠つてゐるやうであります。無常観こいひましても、ただ知識的に注入されたものでなく、深く自然に親しみ、そこから湧き上つてきた感であります。これこそ純日本人の思想こいふこまが出来ます。

さざれ波磯巨勢路なる能登湍河音のさやけさたぎつ瀬毎せごとに

同じく卷三にあつて、波多朝臣なるとり少足こいふ人の作であります。能登湍河は、大和の高市郡にある河で、大和川の支流の曾我川が、その上流において巨勢を流れるまきの名で、他の巻にも「巨勢なる能登湍河」こいふ歌があります。「さざれ波磯」は巨勢の序詞で「ものゝふのやそ宇治河」こ似た言ひ方であります。人麿の宇治河の歌は、水の流の有様——眼に訴へるこまを詠んでゐたのでありますが、この歌は、瀬毎せごとに立てる河音の清らさを賞讃したもので、耳に訴へる方の側であります。私もずつこ以前秋晴の日に、この巨勢路の能登湍河のほとりに立つて、川音に耳をすましたのであります。清澄な氣分は實に言ひ難いものがあります。そして古人が既にこのやうな境地に達してゐたこまに驚いたのであります。この歌を口ずさみます。さながら音楽をきくやうな河の音がひびいてまゐるではありませんか。

和歌の浦に潮満ち来れば瀉かたを無なみ葦あし邊へをさして鶴鳴たづきわたる

卷六にあり山部赤人の作であります。何時の事かわかりませんが、天皇の行幸のお伴をして紀州に出かけた時の作といふことが、注記されてゐます。天皇ご申すのは、聖武天皇のごことであります。奈良時代の最盛期の作といふことになります。和歌の浦に潮がさして来るに、干瀉かたがなくなるので、葦あしの生えてゐる邊へ鶴が鳴きながら移つてゆくといふ歌であります。一讀して、その調の美しさに魅せられてしまひます。實によく整つた美しさで、我が國の自然をうつつして居ります。赤人こそは、萬葉集の自然禮讚の最高調を行く人であります。

み吉野の象山きよのまの木末こゝろにはこゝだもさわぐ鳥の聲こゝろかも

ぬばたまの夜のふけゆけばひさ木生おふる清き河原に千鳥しば鳴く

いづれも赤人の傑作であります。なほ赤人には春の野に董こむぎつみにさ來し吾ぞ野をなつかしみに一夜寢ねにける

こいふ歌があります。「野原がなつかしいので一夜春の野で寢た」といふのは、全く自然の中に没入した境地であります。

赤人のかういふ境地が更に一轉化して、萬葉時代の末期になります。大伴家持の左のやうな歌になります。

春の野に霞あせたなびきうらがなしこの夕かげに鶯うら鳴くもわが宿のいささ群むら竹たけ吹く風の音のかそけきこの夕かもうらうらに照れる春日に雲雀うらあがり心かなしもひびりし思へば

この歌は、孝謙天皇の御代の天平勝寶五年の二月二十三日と二十五日に詠まれたもので今から凡そ千二百十七年前の作であります。その優雅な調はまさに正倉院の御物の器具類にあらはれてゐるのと同じする氣がいたします。鶯うらや雲雀の聲に耳を傾け、また竹の葉すれの音をたのしむといふ靜寂しじやくそのものゝ歌境であります。

春の苑のち紅べににはふ桃の花うづ下照したる道に出で立つ少女これも家持の作であります。前の作はまた變つた情緒、はなやかな方面が出てゐます。

かうして萬葉人の自然に親しむ作を通じて見てきますと、今日の私わたしもが色々いろいろ教へられるやうな氣がいたします。

七月の保育

生活訓練

倉橋惣三

「系統的保育案の實際」(本會發行)では、七月の保育案は十五日までになつて居り、一體に簡略のやうである。なにも夏むきといふのではないが、附屬幼稚園の保育が時間短縮になり、休暇が早く始まるからであつて、一般にはあてはまらぬこと、又、附屬幼稚園としても、戦時の今年はこの通りでないであらう。

ところで、「仕事の前に手を洗ふ」にしても、汗ばみ易い此頃に特に必要のことであり、「水道を使つたあと栓をよくしめること」は、必ずしも夏に限つたことではないが、何んとしても、夏に多いことであり、いはゞ、多少實際的の訓練である。が、たゞ實際の爲の訓練といふのでなく、こうした機会を以てする、生活の躰けであることは勿論である。

さて、此の二つとも、事としては極めて簡単なことであるが、それを、どうして訓練するかは必ずしも簡單でない。「仕事の前に手を洗ふ」にしても、その度び毎に、やかましく言つて、傍からその

癖をつけて仕舞ふといふのも一法であらうが、それだけでも濟むまい。それかと言つて、一々理由を説き、理解に訴へてゆくのは、幼児には出来ないことだし、又、却つて純粹に癖のつくことを妨げることもある。一々、理解を通してゆくのは、教育ではあるが、訓練としては、手数をかけ過ぎる方法である。

そこで、斯うしたことの訓練の、一番自然な訓練らしい仕方は、**第一、先生がきつとそうすることである。**そうして見せるといふのは手段的過ぎる言ひ方であるが、そうでなく、實際に、先生もその訓練が先づついてゐて、識らず／＼するのが、子どもを、いつとなしに誘ふところに力強さがあるのである。つまり先生が何時でもそうすることによつて、それが、**あたりまへ**になるのである。

若し、その先生の實際に従つて、子どもの幾人かゞそうなれば、それは一層いゝ。先生ひとりでは、人間だけのあたりまへであるが、幾人かの子どもがするやうになれば、**社會的あたりまへ**になるのであつて、その力は實に強い譯である。そこで、これを方法的に適用すれば、全體を一時に躰けようとするよりも、幾人かを先づ訓練して、それを以て社會的に導く原動力とするのが一法であらう。

一體、幼稚園で、家庭よりも訓練がしにくいようでも、しいゝのは何の爲か、個人的指導としては、家庭の方が都合がいゝ譯であるが、社會的指導としては、幼稚園の方に、大に都合のいゝところがある。幼稚園での生活訓練は、此の長所を活用しなければならぬ。

次に、生活訓練のしかたとして、是非必要なことは、餘り賞罰の手を濫用しないことである。それは目の前にきゝめはあるが、それだけに、ほんとうの、底からの訓練にはなり難いことがある。それよりも、その生活そのものとしての感じを主にし、ゆく方がよい。即ち、その生活の愉快、快感に訴へてゆくのである。「手を洗ふ」にしても、それは子どもながらに快いことに相違ない。その快さを以て導くのである。それを逆にすれば、手を洗はないと不快であるといふところへ心を導いてゆくのである。これは、賞罰によるのに比べて甚だゆるやかなようであるが、これこそが、實は、一番きゝめが深いのである。生活訓練は生活訓練である。一々道徳的性質をもち一々道徳的價値で評價せられる程のことでもない。道徳的のことならば賞罰に相當もしようが、生活は、その快不快こそ、最も大きなものである。

が、いづれにしても、習慣であるから、例外なしに繰りかへさせるといふことが、一番有效な、必須の方法である。「水道の栓をしめるなど、道徳でもなし、又、子ども自身にとつて、格別、快でも不快でもない。といつて節水の理を話しても、幼児には分別やうもない。そこで、たゞもう一途に、反復によつて癖をつけるだけである。多少うるさがるかも知れないとしても、又、先生の方として大に面倒としても、それを怠らぬやうにしなければならぬ。

生活訓練は、子どもの方のことであつて、それがつかないと、

子どもが駄目とせられるが、實は、先生が駄目なのである。生活訓練をする生活訓練が、先づ、先生についてゐるのでなければならぬ。不精な先生、おつくりがりの先生、めんどうくさがりの先生、つまり、生活訓練にまめな先生でなくては、如何に生活訓練の必要を考へてゐるからとて出来るものではない。更に、恐らくは、生活訓練の快感を自ら體驗してゐるのでなくては、生活訓練の必要だけでは、決してほんとうに、先生のおたりまへにまでなるものではあるまい。

自由遊戯

上遠 文子

夏が来た。まぶしい様な太陽の光の中に、汗ばんだ、日やけした子供達の顔をみる時、伸びよくぐんと伸びよ、と呼びたくなる。

暑いがしかし鍛練すべきこの夏に、子供達も戸外へ、そして大いに強くきたへたいものであります。

かげふみ

くつきりとうつゝ、た自分の影、お友達影、何となく夏らしい楽しい遊びであります。鬼ごつこのやうに、ツヤンケンで鬼をきめます。鬼は逃げる人を追ひかけてゆき影をふまふとするので、踏まれた人は鬼になります。逃げる時、木の蔭又は家の影に自分の影をうづめてわからなくしてしまひます。鬼ごつこの陣といふ

わけになります。お陽様の關係で後にあると思つた影が前へ行つたり、思はぬ所に自分の影が出てゐたりして、仲々面白いものであります。

魚釣ごっこ

これは室内の遊びとして提供されます。前々から手技で作つてゐた新聞粘土の、或は畫洋紙で作つた様々のお魚を取捕へます。お魚の口の所には特別鉤をつけますが、それには針金がよろしいのですが、得られぬ場合は古いクリップ、ピン等利用してもよろしいでせう。但し、紙をぐる／＼まいて用ひる方が危険もないと思ひます。保育室の一隅に、お砂箱を利用して又床にじかに作つてもよろしい。石、箱積木又は空箱、ボール紙で圍ひをして池を作ります。そしてその中はお池の様に岩等、手技の折共同製作します。お魚を入れて、釣竿で釣るので、釣竿は三〇厘位の竹の棒につけるのが理想ですがこれも得がたいもの、一つです。から紐だけで結構です。先を輪にしてお魚の鉤を引かけて釣る様に致します。さてこれで用意が出来ました。椅子臺の上につて釣つたり、太公望が深山あらはれることとせう。年長組では釣堀やさんなきめたりし他の組のお客様を混へたりして面白く遊べる事とせう。

この遊びをちよつと嗜好を變へてみました。魚釣り競走と名づけませうか。先づ御魚はこれで結構ですが大きいお魚にすれば尙結構。五〇米位走る豫定で、その三分の二位の所に臺か椅子を置きその上に釣竿をのせておき、床の上にはお魚をおいておきます。三米位の間隔に同じ様にして又椅子をおきます。皆は二組に分れ

ヨイドンで椅子の所に駆けてゆき、釣竿を持ち、椅子の上につて下のお魚を釣り、お魚を釣れたら引つけて決勝點まで持つてゆくのです。團體的に二組の競走にする場合は決勝點の場所にそれを置いて列の所まで走り次の人の手に觸ります。競走となるとお子さん達の小さい胸もわく／＼して仲々鉤に引つかゝりません。年長組の遊びですが、お魚が小さいと、とても難しくなりますから、お魚も大きく鉤も大きく、紐の輪も大きくしておかねばなりません。仲々根氣のいる遊びです。

障害物競走 といひますとさも陸上選手の様には聞えますが、小さい僕等だつて私達だつて、將來立派に成長してお國の爲になる體ですから、その體を何よりも強くきたへておかねばなりません。暑い／＼夏もなんのその暑い汗を流しませう。子供には子供に相當する、體力範圍の、鍛錬も又此の時代に必要かと、保育案に折込んでみました。障害物と言つても廣範圍ですがこれも年少組、年長組では多少加減致します。(一)繩飛びの繩二本間隔をおき横にならべそれを川又はクリークと假定致します。

勿論、年少組は狭く、年長組は次第にひろめてゆきます。川又はクリークに落ちるとすぶぬれになりますから落ちぬ様にとび越しませう。皆は落ちると大變と一生懸命にとびます。

(二)箱積木を縦横に利用してこれを飛び越える。

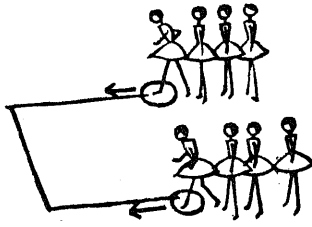
(三)箱積木の長いものを鐵橋として(普通いふ平均臺の代り)渡る。

(五)椅子と椅子の間に紐を張りその下を綱につかぬ様にする。これらの動作を二組位づゝ組合せて競技種目に致します。年長

組は種々複雑に組合せると面白いものです。

體力の弱いもの、仲々賢く通りぬけるもの、眞剣にやるもの、それ／＼子供達の個性が、體力がはつきりと書き出されます。體力の弱いものも度重なる毎に進歩をみることでせう。

ボンと繩のクリークを渡る足な、敵前何米かのクリークをピョンと一飛びにとびこすだらう姿と、將來を目に浮かべてみました。この様な遊びは無理、例へば子供達の體力外のレベルは却つて失敗に終りますゆえさける事に致しませう。



陣とり。木蔭の涼しい所にコの字形の線を引いてみました。

兩方の端がそれ／＼陣で、ヨイドンで兩方から線に沿つて走り出します。途中おち會つた所でチャンケンをします。負けたら效力を失ひ後もどりで、勝つた人は一歩も早く敵の陣地へ近づかうとして走ります。その中に負けた方の組の人が、負けたことをすばやくさとり走り出して、その人とあたります。その様にして勝つた人は進み、負けた方はお代りの人で、はやく敵の陣地についた方が勝つて、負けたら、それをすばやくみつめて敵が来ない様にとび出してゆかねば陣をどられてしまひます。敵陣近くになると仲々接戦で、又もう一息の所で負けたりして面白いものであります。

やはり年長組の遊びでありませう。よく説明してはやくその面白味をわかる様に致しませう。

遊 戯

古 澤 静 子

音楽に合せ、一人歩くのさへ危かしく感じられた足ざり、まして多勢揃つて、直線的に歩くはすのものが、何時の間にか、波のうねりの様に曲線的になつてしまつた四月の頃に比べますと、何と颯爽たる姿勢、堂々とした歩調になつた事でありませう。何と彼等の身體に筋肉にビチ／＼した生氣が横溢した事でありませう。今まで随分歩きました。又駈けました。スキップも致しました。

何れも日常生活にある基本的動作である故、是等の正しい取扱ひは最も必要な事でありませう。結構な事でありませうから、今後とも大いに續けませう。時間的に、量的に、質的に、期に應じて種々複雑性を加へ、變化あらしめる事に致します。

一連の遊戯に於きましても、單的な物より幾分総合的なものに移り變つて参ります。

子供達は、たゞもう遊戯する事に依り、彼等自身、主觀的に運動の快感を體得するものでありませうが、それは、各人の全身體、全精神の躍動でなければなりません。

従つて足の先から手の指に至るまで、生々とした力が、張りきつて、緊張と解緊の絶え間ない循環の中に、自然的で、どこまで

も伸びくゝとした鮮やかな動作でありたいと思ひます。伸縮自在に、良く自己の身體をコントロールし得る様な能力を養ひたいものであります。身體支配の能力は、生活のあらゆる部門に必要な缺くべからざる事でありますから。

個人の場合によくとも、協同動作になりますと、兎角リズムがみだれ勝になります。(先月いたしました貝拾ひの如き)が軌道をはすさない様、溢れ出る感情と動作は、リズムの中に正しく、美しく表現いたしたいものだと思ひます。その心持ちは、特定の遊戯に限らず、椅子から合圖に依つて立上る際、他人の遊戯を見る時、遊戯が濟んで元の位置に着く時までの心持ちでもあります。

由來、「健全なる精神は健全なる身體に宿る」と言ふ事が云はれます。この言葉は、所謂身體を健全にさへすれば、精神は健全になると解釋される傾向がありますが、健全なる身體の中に、健全なる精神を宿らしめたい。と解釋すべきでありませう。健全な精神を得んが爲には、健全な身體が必要であり、健全な身體を得んが爲には健全な精神が必要であります。即ち身心一如として健全であるのが、本當の健全であります。

夏とは切つても切れない「お洗濯」「蝿」及び爽涼な「渡し場の船頭さん」「めだか」をいたしませう。汗を出して元氣よく。

『お洗濯』 日本幼稚園協會發行最新作曲幼稚園唱歌集所載

隊形。圓形又は自由隊形

「前奏」 そのまゝ聞く。

「五小節—八小節」バケツ又はタラヒにお洗濯物を入れてスキップで井戸端へ行く。即ちそれ等を持つた自由な表現で、圓周に

そつて右(左)に廻る。自由隊形の場合は好きな方向にスキップで。

「チャップ／＼／＼／＼お洗濯 母様盥でお洗濯。赤ちゃんの着物を洗ひます」その場に腰を下し、リズムに合はせながら、自由にお洗濯の動作をする。こし／＼洗つたり、掴み洗ひ、もみ洗ひ、しぼつたり、すゝいだり、色んな風景が出来てくる。

「シャボンのあぶくがぶく／＼と」あぶくが盛り上る様に、始めは小さく、次第に大きく両手の内外廻旋をする。

「まるでお空の雲のやう」立ち上り、お空を見ながら、両手を前より上に擧げ、横から下す。

「後奏五小節まで」お洗濯物を物干にかけませう。二呼間に兩手を上げてお洗濯物を掛ける動作をする。

「同九小節まで」お洗濯物の皺を伸ばしませう。兩手で縦横に引つ張る。上から下まで充分伸びる様に。

「同十三小節まで」その場でお洗濯物をたたくリズムに合はせて拍手

「同十六小節まで」二呼間に一歩づゝ三歩後退して、お洗濯物を眺める。

『蝿』 日本幼稚園協會編 幼稚園新唱歌所載

隊形。圓形

「前奏」 圓周に沿つて左(右)をむく。

「ピカ／＼／＼／＼蝿がとぶよ」一呼間に一歩づゝ歩きながら、二呼間に一度づゝ左右の手を交互に横から前上に擧げ、上の物を拂ひ落す様に下す。上にゐる蝿を片手で落すのですから、

脊伸びをする位にして高く舉手しませう。上方に頭を向けると共に胸を張つた姿勢が出来る。

「ピーカーピカリ」その場に止り、上體を前傾、兩足を屈膝し、兩手を後に伸ばして、一呼間に一度、兩掌をピカリ〜と開閉させながら次第に體を起す。

「葉つばの陰で光る」各自の廻りを跼足で一廻りし、「光る」の時正面を向き兩手を舉げて、ピカ〜と兩掌を三回開閉する。之は螢をとる動作と、螢になる動作である。螢と言へば、必ずピカ〜光るものである事を思ひ出す。兩手は固く閉じて、大きく開くことに致しませう。

「渡し場の船頭さん」 日本幼稚園協會發行新體幼稚園唱歌所載

隊形。八人乃至十人一組になり、一列縦隊に並ぶ。

動作は、一、二、三節共同じ。

「前奏」 片足を前出し、四呼間に一度づゝ船漕ぎの動作を行ふ。即ち二呼間で上體を前出し、兩臂を前に伸ばし、次の二呼間上體を起すと同時に、兩臂を體前に引寄せらる。

この動作は、船漕ぎ運動の時行ふ様に、皆で力を合せる爲に、前奏のメロデーに合はせながら、「マーエミウシロ」とか「一二三四」とかけ聲をかけながら、調子を合はせてゆきませう。

「渡し場の船頭さんは今朝も早よから船に來て」各組全生連手し、先頭より圓形を作りながら歩く。

「向の岸へ」連手をほゞき、各自兩手を振つて、先頭の者から、圓をときながら、又一列縦隊になつて眞直ぐ歩く。

「行つたり來たり」岸への「へ」の時、廻れ右をして方向をか

へ、「行つたり來たり」で一番後の者が先頭になつて反對の方向に歩く。正常歩で姿勢を正しく、サツサツと歩きませう。

「めだか」 日本幼稚園協會編、幼稚園新唱歌所載

隊形。圓形、一二番共、同動作。

「前奏」 圓周(左又は右)を向く。

「スイ〜〜〜スイスイ〜」兩手を行く方向と反對の方向に伸ばし、軽く上下に振りながら、圓周に沿つて一呼間に一歩づゝ歩く。上體は行く方向に傾け、後方に伸ばした兩手を見る。四小節目「イー」の時、兩手を反對側におきかへて伸ばす。

「めだかの行列スイ〜」先と反對の態勢をとつて反對の方向に歩く。八小節目のイーで再び兩手を反對側にもどす。

「一匹二匹三、四匹」二呼間に一度づゝ、ツイステップをしながら、同様二呼間に一度づゝ左右の手を交互に前より上に舉げる。

「皆で仲良く泳いでく」圓心を向き、互ひにお隣の肩に兩手をかけ、圓心に歩いて進む。

「間奏」 前奏を弾く。そのまゝ後退し、兩手を下す。

「後奏」 前奏を弾く。そのまゝ後退し、兩手を下す。こゝで初めてツイステップが出て来る。之は二拍子のリズムに合せ、(1)で右足を前にステップし、(ト)で左足を右踵の後に引寄せ、(2)で更に右足を前にステップし、この動作を交互に行ふのである。最初この歩法だけ特に練習することに致しませう。めだか、は、すいすいと可愛らしく泳いで下さい。

観
察

清 水 光 子

七夕さま

端午の節句ははじめての楽しい年中行事にしても何といつてもまだ入園もなく、思ふさま幼稚園の行事を楽しむわけにゆかなかつたやうであるがもうこゝまでくれば幼稚園生活が身についくる。充分楽しい七夕祭りをしたいものである。お話、手技の方で一々の細かいことは書き盡されることであるから、観察としては、どの子どもにもお仕事を分擔させること、たゞみてるばかりにしないでやらせるやうに注意することにした。

水

水なんか、しよつ中みてゐるし、いちつてゐるではないか、まして水遊びでもさせたら後始末が大變……と叱られさうである。けれどあまり近いものは知らないといふ一つの例にも引けさうでもある。暑い折であるから特に水を澤山使ふ、それを一寸観察といふまでのことにはないがその心持でしてみたまゝを書いてみよう。

(一)粘土遊びの手を洗つてゐる子ども、始めは普通に洗つてゐたものが段々水をたゞ出して流すことに興味をもつてしまつて、ちやあ〜と出してゐる。「靜に出して洗ひませうね」言つても、一寸はきいてもすぐ栓を一ぱいに出して勢よく四方に廣がるのを樂

しんでゐる。前掛もはやびしよ〜である。「さあよませう。細く出して洗つた方がごんなにお前掛をぬらさないでいゝのよ、ほらこうしてみませうか」と粘土遊びに使つた古いわり箸を栓の口の所にあて、水を細く出して靜にお箸をつたはらせて手にかけてやる。あとから洗ひに来た子どもにお互に斯うしてかけて洗はせる。

(二)暑くなつたら砂遊びであまりよくれたハンカチやエプロンなどざつと洗ふのに、小さい入れものに水を張つて意に出しておき、日向水をつくつておく。それは寒い日本を作つてみるのと同様に、そして出来ればガラス板をのせておく。「汚れたハンカチなどまとめて洗ひませうね。」と言ひ乍らみんなにみえるやうに「ごんなに水たまたがついてゐる。」「ずる分暖かくなつてゐますよ。」と言ひ乍ら汚れものを入れる前手を洗ふのに日向水をかけてやる。「どの位になつてるかはかつてみやうかしら」と言つて始めはたゞの水に、次にこの日向水に寒暖計を入れてみる。これは幼児に説明や、一々みせることをしないで私の獨り語のやうにしてする。みたいといふ子どもにはたゞみせる。

(三)鉢に薄いた朝顔に水をまく。如露に水を入れたのが少し殘つた。お砂場にまきませう。太陽を背にして「こちらへ来てごらんなさい。」と先生に竝んで立たせて人造虹をやつてみせる。もう一ぱい二はいおまげに水を砂場にまき乍ら。

(四)水が低い方に向つて流れてゆくことが不思議でどうしてかとしきりにきく子どもがあつた。「どうしてかしら」と先生も不思議さに共鳴して首をかしげたことであつたがその考へ至つた原因

は、雨上りのお庭のたまり水の排水工事(?)を子どもも手傳つてしたからの事である。たまつた水をマンホールへとシャベルで土へみぞをつくつて導いた。何本も枝を出した川のやうな形にして。手は汚れたけれど楽しい仕事であつた。途中で流れが何度も止つてしまふその度に、次々に低くして流してゆく。すつかり流れたあとのみぞを埋めておいた。

夏の雑草

ひろがほは園藝からいふと全く困つた雑草だと大岩先生がおかきになつていらつしやる。とつてもとつても後から生えるしすく根を張る。せいよくとることにしやう。葉の形を知らせてこの草はとつた方がいゝ事を話す。若し花が咲いてゐるのがあつたら幸、さつそくとつて一輪さしにでもさしてみる。切紙や、寫生の材料にしても可愛い。朝顔に花も葉もよく似てゐるひろがほといふ名を教へる。つゆ草も可愛い、出来る丈畑の爲には取り、取つたものは少しおまゝごとのお家をかざつたりごちそうにしたりする。もう赤まんまも咲いてゐる。これもよいごちそう。すぎなもどこつないだかのあつこ遊びをしたりし乍ら除草に協力しやう。

野菜

みんなで蒔いた野菜がそろそろ収穫出来るものがある。何でもよい、一つ二つでもよい、穫れたら本當にうれしいその氣持をみんなでみ乍ら話し合ひ乍ら繪にかく。といふより新鮮な美しさは繪心のない私にかいてみたいと思はせる。

せみ、とんぼ

わざ／＼もちぎなをふりまわしてせみ取やとんぼ取りをなしく

てもいゝけれど蟲とりあみはあつてもよい。そして捕つた蟲は、かねがね言はれてゐることであるけれど、羽をいだり足を取つたりしてみせるのはよしたい。そうまででなくても羽が何枚、足が何本といつてわざ／＼教へないで、羽や、足などのことを特に知らせ度いならば他の蟲と比べてちがひをみつけ出させるやうにし度い。

談話

安村ふさ

梅雨もからりとあけて暑い夏になりました。お話も今月は保育室の中に於て丈でなく、園内の涼しい木蔭等で随時話したいものです。今月、系統的保育案の實際に豫定されてゐるお話は、七夕様、支那事變記念日の話、人形山名鐵雄君の出征、へうたんラッオ、浦島太郎、八岐の大蛇、雪の御殿であります。

七夕様 七夕祭は此の頃都會では餘り行はれませんが、地方によつては大變盛大に致す所があります。牽牛、織女の話も、地方によつて趣きを異にしてゐるかも知れません。それ／＼其處のことも達親しい趣きにお話なさるのがよろしいと存じます。お話のもとの意を特に狂げる事はありませんが、ごども心にびつたりと來る様なことばで話したいものです。そして又單なる二星の傳説として丈でなく、天の川の事から天體の運行、星座の事など、極く／＼簡単に、問答の形式でも話し、夜空に燦く星を通して

宇宙の神祕に觸れさせ度いものです。戀て科學する心の培ひにな
る等と強く意氣ごます、幾多の疑問と神祕感を心中深く印象つけ
る様に話したいと思ひます、

支那事變記念日の話 おもへば昭和十二年七月七日、蘆溝橋の
銃聲一發を機として支那事變の幕が切つて落ちました。私共の
胸にはあの日に至るまで及びあの日以後の生々しい思ひ出がやき
ついて居ります。併しこども達には詳しい話はやめて、簡単に常
時のいきさつを話すか、又は具體的なある場面、ある人物を中心
として、支那事變の性格を知らしめたいと存じます。年長組では
南郷少佐の話が此處に入れています、少佐に限らず、各地の
勇士を中心として具體的な例で話してよいかと思ひます。尙當日
私共の幼稚園では、例年

「人形山名鐵雄君の出征」を致してまゐりました。之は支那事變一
週年記念日に始めて上演致したものでありまして、昭和十三年八、
九月號に脚本が載せてあります。實演の注意等も詳しく書いてあ
りますから、それを御覽頂けば分りますが、此は事變の始め、時
局、戦争、兵隊等に對することも達の認識を深める目的のもので
ありました。只今の事態は一日一日推移し、こども達の認識も興
味も深くなり、新まつて居ります。支那事變記念日に捉はれる事
なく、近代の戦争に對する具體的認識の一助として、ハワイ海戦
でも何でも、保姆自身が書き下し、實演してみせたいと存じます。
「へうたんラジオ」 正直でやさしい働きもの、清兵衛さんはへ
うたんの磨く事が大好きでした。へうたんは清兵衛さんの働きぶ
りに感じて毎日綺麗な音楽を聞かせました。又何も食べないのに

口中を甘くしてくれました。一生懸命働く近所の人々も同じ様に
音楽が聞え、口が甘くなり、皆喜んでゐましたが、意け者の重兵
衛さんには一向何の効果もありませんでした。清兵衛さんは毎日
働いて、夜はラジオを楽しんでゐましたが、其中ラジオの方が面白
くなり、働くのを止めてしまひました。するとどうでせう。へうた
んは何の變つた事もないたゞのへうたんになつてしまひました。
そこで清兵衛さんは仕方なく、島に出て前にもましてよく働いた
所が、へうたんは又よい音楽を聞かせてくれたといふお話です。
誠に明白な教訓を含んだお話です。併し、さう感じさせつゝも露
骨な厭味がなく、涼風に吹かれてへうたんラジオを聴いてゐる氣
分にするのが原作の妙味であります。話す時も淡々と語りたいも
のであります。

「浦島太郎」 もとは雄略紀に出てゐるのですが、萬葉集卷九の
雜歌に物語風の長歌に歌はれてあります。日本古來の代表童話と
なつて居りますが、此には、支那の神仙譚と佛教思想の無常感、
日本特殊の海洋物語が結びついて居ります。萬葉集の「春の日のか
すめる時に……」にはじまるあの長歌によつてもとの形を参考と
して御覽になるのもよろしいかと存じます。こども達に話す話と
しては浦島が龜を助け、その背に乗つて龍宮に行くといふので誰
も知つてゐる通りであります。最も興味のある點は、白髪のおぢ
いさんになるといふ所でせうが、龜の背に乗つて、海の中にある
といふ龍宮に行くといふ事、龍宮での生活、想像力の豊かなこと
もはこれらの事からもつと／＼多くのものを發展させて行く事で
せう。

「八岐の大蛇」 皇紀二千六百年を中心として、こどもに語る神話が多く発表されました。私共も古事記をもととし、書記を参考として試作いたし、屢々語りきかせて居ります。何れにしても、中心は素戔鳴尊の沈著冷静な御計略と豪毅な御性格、御行動であります。此の點を心にしつかりと入れて話す事によつて殊更たくまずとも、戦時下に於けるとるべき心構へを植ゑつける事になると思ひます。

「雪の御殿」 季節にびつたりしないお話ですが、暑い時の清涼劑にと、お話の大變可愛らしい所から入れました。此は當日本幼稚園協會にて近く談話集第二を出版する時に入れるのであります。「幼児に聴かせるお話」にも載つて居ります。大雪の降つた朝、冬雄さんは雪のことも達と橋に乗つて雪の御殿に遊びに行きます。そこでは何もかも氷、雪です。眞白な着物の雪姫様を中心とした遊びは大變愉快です。頂くアイスクリーム、牛乳、お汁粉、何でもコチ〜に凍つてゐます。冬雄さんは夢中で一日を楽しく遊び暮し晩方四頭の白熊の曳く橋で歸つて来たといふお話です。實際行かすとも、口に入れずともお話ぶりによつて涼しい思ひがする事でありませう。

最後に、此の一學期間かうして書いて参りましたが、大體去年夏出版の保育案、而も年少記に據つてゐる爲只今の時勢からは何かもの足りないものがあります。併し譯つて考へてみますと、一々のお話を時局精神と聯關させるのも十分俯に落ちぬ點がありま

す。そこで私は時局精神涵養の一助にもと、……さんの慰問文といふ題で只今試みて居ります。つまり或る兵隊さんである幼稚園児が慰問文のお話によつて仲良くなり、手紙をお互ひにやりとりしてゐるといふ形式に於てあります。兵隊さんの側からは戦局の發展と戦争の模様を、こどもの側からは日常生活の様子を語らせ、こどもとして今とるべき態度、將來なるべき姿を示唆するのです。果してかういふ方法がいゝものか疑問であります。時局とお話といふ事を始終念として居られる皆様の御教導を仰ぎたく存じます。

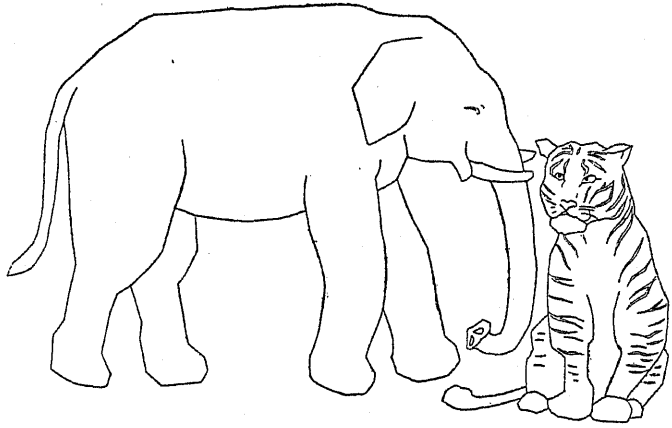
手 技

針仕事

動物のきりぬき數種(畫用紙)

幼児の親しみ深い動物、象、猿、キリン、熊、虎、ライオン、などの數種を膽寫判すりに用意しておいて、その輪廓を切りぬく、この時動物の繪はその動物そのものゝ特徴を充分にあらはすといふ事は勿論であるが、又一方幼児たちがこれをきりぬくのに適當な線の風曲である事も考へて畫くことが大事である。きりぬいた動物をそれ〜の色にぬるか或は動物はそのままにしておいてこれをはつた帖面の臺紙をぬるかいつれかにする。

及川 ふみ

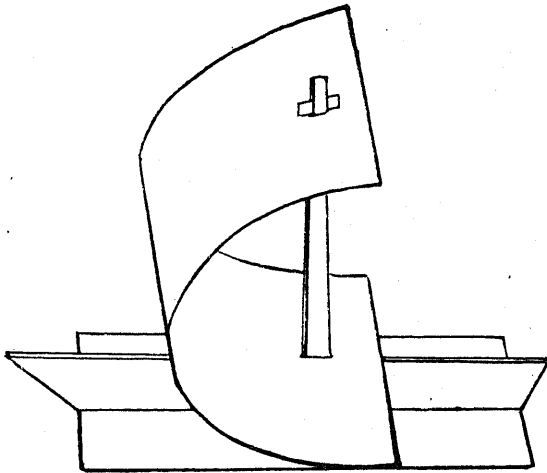


帆かけ船(古はがき)

古はがきを縦を二つ折にする。輪でない方を両端一センチ半幅に折目をつける。折目の線の上に簡単な船の形を畫く。船の上の

部分は中央帆柱に三ミリ位の幅を、二つ折の端までのこしてその他の部分は切り落してしまふ。

帆は半紙を幅 四センチ半、長さ、九センチ位に切つて帆の中



央上下に帆柱を通すだけ細く切りこみを入れて、帆柱にさしこむ様にする。上の部分だけ帆がぬけない様に小さい止めをさしこんでおく。

これを幼児にさせるときには、船底になるはがきの両端の一セ

ンチ半の印と、舟の中央の帆柱の部分だけ印をつけておいて船の形は任意に畫かせることよい。一センチ半の水面は青く、船べりと帆柱とは茶色にぬる。

金魚鉢と金魚(古はがき)

金魚は、古はがきを二つ折にして背ひれが輪のところになる様に簡単な金魚の形を畫き切りぬいて、表裏のある立體的な金魚を作る。色は赤くクレヨンでぬる。

金魚鉢は三枚の端書で作る。

はがきの周圍を一センチづつ、折つて四角に切り目を入れて、一センチの深さの箱をつくる。箱の内部は水色のクレヨンでぬつておく。この箱は金魚鉢の底と天井にするために同じ箱を二つ作る。次に底の上に立てる柱を四本つくるのであるが、はがきを縦に四つに折つて切りはなし、各々一本づつ、を又二つ折にして兩端一センチだけ切り目を入れて一センチ四角を重ねて箱の上下につけるノリシロをつくる。柱も箱と同様に内部を水色でぬつておく。四本の柱を箱の四角にたて、糊の乾いた頃に又天井をつける。二匹の金魚を糸で天井から吊すのであるが糸を長短二様にしておく。底にみどり色の紙で水草をつくつてはつておく。

提燈(七夕用のほうつき提燈)

はがきを縦を二つ折にして、植木鉢同様に兩端一センチづつ、をのこして一センチ幅に切りこみを入れる。色は提燈の上下の部分には黒くその他は赤くぬる。心の部分は縦一四センチ一ばいに、横は半分四センチ半に切つて外と同様に赤くぬる。心は半センチのノリシロで筒をつくり、外側の上下一センチの部分に糊ではりつ

ける。口に糸をつけて色紙短冊など交ぜて笹に吊すと可愛らしい。

粘土

野菜(新聞粘土)

おまじこと材料になる野菜で、幼児たちの作りやすいものならば何でもよい。きゅうり、なす、かぶ、大根などがよいかもしれない。新聞粘土は普通の粘土にくらべて水くもつて遊ぶのにこわれなくてよい。色が鮮明に出て氣持がよいなどいろ／＼の長所がある。

作り方

雨の日などの様に外遊びの出来ない時に幼児たちの仕事に新聞むしりをするときよい。破けたものや、しはになつて他に使へない様なものを小さくむしつて水にひたし、流しの様なところでたいて柔かくする。新聞紙、全紙一枚位を一人分とする普通粘土と兼へる位の分量になる。三十人一組分として三十枚の新聞紙に二十錢位のふのりを水二三合で煮て、柔くついた新聞紙のおだんごによく交ぜる。この時新聞のおだんごはかたく握つて水氣を充分に切つてからふのりと交ぜるのである。

ふのりが少ければ新聞がばら／＼となり形が出来ないし、又ふのりや水氣が多ければ出来上つたものゝ形がくづれるからその加減に注意しなければならぬ。

粘土 (自由製作)

七月も中旬から暑氣も強くなつて来るから風通しのよい木陰へ机など持ち出して、粘土製作など度々するとよい。砂場などで粘土で作つた箱庭道具を使つて遊ぶこと等面白いと思ひつきである。

自然物おもちゃ

木蔭で遊ぶことから思ひつくのは草木の葉、莖、花などでいろ／＼の遊びも出来る。八ツ手の落葉で弓矢をつくり、朝顔の花で染め汁を作つて遊んだり、芋の葉などでいろ／＼のおもちやが出来て遊びに使へる。保母が落ちてゐる木の葉を拾ひあげ、何か幼児の前でよろこびそうなおもちやを作つてゐるのを見てゐると幼児たちも自然にこんなものについての關心が出来てきて、自分でも又いろ／＼のものをつくる様にもなる。又そんな目的でなくても単に幼児一同にいろ／＼と自然物のおもちやを作つてやつてもよい。ことに自然の中にしたしむ機會の少い都會の幼稚園では保母が心がけて、つとめて自然物で遊ぶやうな手技をとり入れて指導しなければならぬ。

誘導保育

菊池ふじの

五月から次々と誘導保育を試みて來ました。誘導保育は特別手がかゝるといふのではありませぬけれども、それでもその日その日出來上つたものを持つて歸るといふ方法よりは、全體としてのまとまりとか、個人の充實指導とか、或は個人の指導に當つて居る時の他の子供等への心配りとか、そう言つた心勞が要りますので、やはりかなり心的に重い負擔ではあるのです。

七月となれば暑さは暑し、午前半日だけの保育時間にもなりませんので、かた／＼保母先生の息抜きにもと、今月は誘導保育の豫

定は致さないことにします。丁度七日の事變記念日があり、七夕祭りがあり、又第一學期最終の集りがありますので。

七夕祭り 栗の花咲く頃、あの笹の葉に綺麗な五色の色紙で、短冊や、着物等を拵へて、下げた頃の記憶が微かな匂ひをもつて蘇つて來ます。實際、人工的美麗の何物をも持たない田舎で育つたものには忘れられない行事の一つでせう、尤もこの七夕祭りは、地方によつては殆んどしない所もあり、名物として誇つてゐる所もありまち／＼ですが、行事そのものが幼稚園的であるせいか、民家では餘り見られないこの東京に於きましても、國民學校、初學年、幼稚園などでは、さ、やかながらも缺かますに實行してゐるやうです。

扱て、こういう時局になりまして、物の無駄といふことを極力避けなければならぬ時に、程度にもよりますが、いろ紙を相當に使ふこの七夕祭りをしたものが、それとも包み紙利用、厚紙利用などをして廢物利用の七夕祭りをしたものと、迷ひますが、それは各々の氣持によつて如何様にしてもよいことだと思ひます。色紙と廢物利用混淆も時局柄どうでせう。

短冊はいろ紙や無地の包み紙などで。吹流しはいろ紙で。あみはいろ紙包み紙、きものなどは厚紙を切つて、いろ紙で模様を貼りなごして。

そして色紙や短冊には、繪や字を書いて七夕様に上げると技術が上達すると昔から語り傳へられてゐることどもを話して、子供に出來る程度のことなさせる。姓名を書かせてもよし、兵隊さん有り難うと書かせてもよし、繪を描かせてもよし。

こうして出來た色紙、短冊、吹流し、着物、あみ、提燈(その他ふら／＼人形、星等何でもきれいなものは下げる)などに、こより

をつけて、子供等といつしよに笹に吊す。

今の世のやうに世の中があわたしくなること、子供中心の年中行事等はつい忘れられ勝ちになるものですが、こゝにいふ時世だからこそ尙更、子供の心にいゝうるほびとなり次代への傳統となる年中行事をおるそかにしないやうにし度いと思ひます。

期待効果、保育案に掲載してある通り、年中行事に對する興味、美感の涵養、手技といふ事に盡きると思ひます。

繼續時間、當日より三日位前より始め、この日が済んだらおしまひにします。

お話と唱歌の會

やがて第一學期も終らうとしてゐます。子供達を幼稚園に惹きつけやうと、入園以來ベストを盡してきた第一學期、馴れて來た亂雑の中にも何とかまとまりをつけやう、躰をしやうと努力して來た第一學期、少しくまとまりかけた幼児個人の能力を何とかして充分に伸ばしてやらなければならぬと努めてきた第一學期、それがやがて終らうとしてゐます。一學期の終りに際して、子供達が漸く親しみ樂しんでくれるやうになつたこの幼稚園を、いやが上にも楽しいところ、面白いところといふ印象を與へて、この幼稚園への魅力を、永い夏のお休み中にも忘れて呉れないやうに願ふ心でいつばいな保姆は、又こゝに楽しい集ひを工夫して子供等をすつかり惹きつけておかうと計畫致します。

先づ幼児達とプログラムの相談。形は相談ですけれど、保姆の心の中では豫めプログラムが出来てゐなければなりません。それを幼児達が自分で自分達の會を持つたといふやうな心持にさせ度い

爲に相談といふ形を取つて見るのです。そして子供達に言ひ度いだけを言はせて見ます。その中には、こちらが豫想しないであるやうなこともありませうから、そゝいふのは取り上げてプログラムのの中に加へる。併し、これ位の子供ではじつと室内に籠つて居られる時間といふものが割合に短いものですから、子供等を樂しませ度いの一念から、どうかすると盛澤山に過ぎて、あとが驟然、雖然と終らないやうに注意することが必要でせう。それから、こんなことは言ふまでもないことですが、今日、何かをさせるのは、組の子の全部にさせるやうにしなければなりません。併し、組の子供が一人々々別々にすると、餘り時間を取り、子供達が飽きて來ますから、同じことをする子供等五六人、七八人と組み合わせさせてさせることがいゝでせう。

先生のお話、何と言つても、子供等が一番親しみなつかしんでゐるのは受持の先生だと思ひます。是非受持の先生がお話をしてやつて子供等に満足を與へ度いものです。又子供等の大好きな人形芝居を一つ位して子供等を魅了しても見度いものです。幼児の吟誦、個人でもよし、全體揃つてもよし。

唱歌、遊戯、個人でもよし、四五人、七八人と組み合わせてもよし、或は男兒、女兒と分かれてさせてもよし。おはなし、子供等のすきすきにさせる。

なぞ〜

期待効果、人の前での發表の練習、人の發表を聽く態度の養成、又共に楽しむの心、と保育案に出て居ますが、その通りと思ひます。

この頃、あの頃

十文字高女附屬幼稚園 留岡よし子

この頃の子供はえらいですね、入園式の日にお返事の出来ない子なんてあの頃……十年前……から見たらまあ無いといつてもいゝ位ですもの、お附添にかじり付いてゐる子も減りましたね、そうく下駄箱や帽子掛の自分の名前は大概讀める様ですよ、始めて描く繪もどうやら形を成してゐますし、摺紙も相當正確に出来るのが多くなりました。一列勵行などいふ事は流石に眼に慣れてゐる故か中には體に覺えのある子もゐるらしく、あの頃から考へると世話がやけない様に思ひますね。そして又配給々々で締めさせられてゐる故か當がはれたもので満足して、ねだるといふ事も少くなつたのぢやないでせうか。とにかくこの頃の子供は取扱ひ易くなつたと思ひますよ、それはとりも直さず十年前に我が「皆さんかうなさいよ」と子供等に云ひ、「子供はかう扱つて下さい」と親に呼びかけた結果

が當時の子供にぞれ文結果として見られたかは別として十年後の今日、この頃の子供の上に見出せたを考へてもいゝのぢやないでせうか、でも何となく物足りない氣がするのですけれど……もう少しば一つとしてゐて扱けた所があつてもいゝ。コセくして神經を尖らしてさあ今度は何の注文だらうと待構えてゐる……といつた様な態度、可愛げがないともいへますし……もう少し明け放しにして力一杯叫んであはれてくれともいゝ、ねだられてもみない。繪にならぬ繪を繪にしてみたい。摺めないものを摺める様にしてみたい……もう少し世話をやかせてほしひ……生のまゝのものを自由に扱ひたい……こんな事を書き乍ら私はハツと思出しました。昨年、國民學校の先生から幼稚園から來た子は訓練されすぎてゐて困る、つと駄々をこねる子を、甘えてくれる子をよこしてほしひ……といはれて、私

はムキになつて抗議したものです。あなたに興味を満足させる爲に訓練し得るものをせずに送る事は出来ないと思ひましてね。私は今家庭に向つて同じ様な事をいひたいらしい自分を我乍らあきれてます。妙な感情ですね。どこが間違つてゐるのかしら、子供の中にひそんでゐる。「大いなるもの」「勝れたもの」が感じられない自分が至らないのでせうね、統一均等、配給……一率的なこの時代に、そこを亂さずにその上に出づるものを期待してゐるのですが、どうしたらいいのでせう。

この頃の家庭はよほど進歩しましたよ、必ずしも我々の呼び掛けた結果許りとは思ひません、社會が教育したのでせう、あの頃は刷物を渡しても讀まないで一々開きに來る人が多く「よく讀んで下さい」と注意書した事もありましたつけ。費用を集める時は古封筒に金額と何費用といふ事を書き必ずつり錢なき様、組、姓名を忘れずに……といくらいつても五圓札十圓札を帶の間から出して申込の紙は忘れませんでした……といふ様なのが相當ありました。この頃は注文通りにして來ない人もないとはいへませんが

あゝ、そうした點はちやんとして來る様になりました。やはり配給を貰ふにもいろいろ書込む必要に迫られて慣れて來たと見えますね。子供の事で話合つても一般によく打明けて相談し合ふといふ様になりまして、でも「御遠慮なくいけない所は仰つて下さい」といはれて遠慮なくいけない所、丈いつたのでは親御さんの氣持が穩でないらしいのはこの頃もあの頃も變りない親心の様ですね。

親御さんは忙しからう。こうしたら迷惑しないか、あゝしたら手が省けて喜ぶからと考へすぎる、のも親切の様でかへつてよくないらしいとこの頃になつて考へてます。

やはり我子の爲には忙しい中を都合したりあゝもかうも……と一苦勞も二苦勞もしたい親心を考へて適當に苦勞させて上げた方がいゝ様ですね、協力を求め接觸を多くすればする程我々への親しみ信頼を増して喜んで貰へるし、結果もいゝ様です。

この頃の保母さんとあの頃の保母さん……あの頃はたゞ子供が好きで保母さんになつた、たゞ何となく……といふ人が多か

つた様に思ひます。この頃は「幼児保育」の仕事を尊いと自覺してやる方が多い様ですね。

熱心……といふ點は、個人的のものですが、社會が認め、信頼し責任を負はせるといふ傾向がこの頃の保母さんの保育者としての自覺を一層促す様です。確りしてきた一面「こゝからこゝまで私の仕事」、そこからはあなたの受持」といつた氣分も感じられます。これは利己的といふより「自分の職業を専心守る」といふ意識が自然そうした形で表れると考へた方がいゝのでせうね。この頃もあの頃も變りのない事は何といつても世間に慣れない嬢さん方、惡氣はないのでせうが、いふへき挨拶をいはず、同僚、長上、園児の家庭に對しても何かにつけてこゝとばが足りない事を感じます。とはいへ子供の取扱、保育の技倆等は進歩し

たと思ひます。

しかし、この頃の悩みは收容し切れない入園志望者、閉出しされてゐる幼児の事、そして最大限度に收容されて手が届きかねないかと思はれる園児の事、設備と保母の及ぶ限りともかく入れた。こんな時勢だから出来る丈入れた方がいゝのだらうと思つて入れた。保母の力には限りがある。

この頃の少い菓子の取扱の様は幼児の上には拂はれる注意の配給が園児の數に反比例して少くなつていゝものだらうか、十を抱いてこの惱を持つか、五を守る爲に餘の五を捨てるべきか……と……そして又十以外のいくらか願みられない状態にあるこの頃……

「おほみたから」の爲にこの頃、あの頃と思ひだしてこれから先を考へ乍ら

(十七、五、十)

歩きませう

附屬幼稚園

古澤 静子

歩く事は既に生後一ヶ年をこゝでその

要領を自得し、如何なる生活様式の人にと

つても日常生活とは密接不離の關係を以て、一生涯最も多くの時間と、量とを費してゐる。

身體の一部である足で、歩くと云ふ事は、あまりにも我々の生活の中に有りすぎる問題である故、我々は屢く足の尊さと、歩く事の重要さを輕視し勝ちで、殊更歩き方に就て訓練の必要は無い様に考へられるが、そうであればある程、不自然な歩行は、實生活の上に色々な障礙となつて現はれるものである。

小さな事の様であるが、かりに集會の場合を考へてみても、訓練された人々に依る場合には、短時間で完了するが、歩行訓練の足りない人々の間では、集會散會に、實に多くの無駄な時間を消費する。この位ならまだ良いとしても、現在に於て重大事件が突發した事を豫想し、歩行訓練の缺陷がもたらす慘禍の擴大を考へる時、戦慄を禁じ得ない。

然して歩くと云ふ事は、國民生活の必要性から考へられるのみならず、それ自體、最も簡單な自然的な運動形式で、様々の體育運動中、最も優れた運動であると言へよ

う。それは單に脚や臂の運動にとゞまらず、立派な體育的な全身運動なのである。それ故、一個人の健康保持は勿論、大國民として體位鍊成の立場より、この問題は十分に研究され實踐されなければならぬ。従つて理想的な歩行の性格とも云ふ物を考へると、

一、最も美的に、即ち上品優雅に
一、運動の勞力を經濟的に
一、體育上價値ある様に

と言ふ事が出來よう。それならどうすれば、この目的にかなふ事が出來るか、具體的歩法姿勢はどんなものであらうか。それは

一、姿勢を正して歩く
頸を出さぬ事。腰脊を伸ばし、上體を眞直に保つこと。着眼點が方向線上にあること。即ち目の高さより高かつたり、低かつたりしない様。

一、振臂について
妄りに振臂する事は窮屈な感じを與へるのみならず、却つて舉脚の力を制限し、無益な勞力を要するものであるから、臂は十分腕力され、歩長に正比例して、肩から自然に振り、足、脚、腰、胸、頭を

すべて調和的に順應させる。

一、指は軽く伸びてゐる程度。

一、踏出される脚は、股を挙げすぎず、關節を硬直させないで力を抜く。

一、體の重心は腰部にあるから、全身移動の際には腰部が成るべく上下左右の震動なく、靜かに前方水平線上に進む様にす

一、振動脚は前方に振れて地床に着く直前に、軽く伸びてゐること。

一、足尖は歩く方向にむける。甚だしい外鰐内鰐は矯正されねばならない。

一、足は踵から地床につける。その後直ちに全足蹠が地床に接する様に。

一、歩長、歩數、常に適正に。明朗潤達な氣持で颯々と歩く。

と言ふ事になるであらう。

實際、我々が歩く場合には、様々な面白い現象が目につく。第一、靴の踵が、變に曲つて減る事である。體重が立脚の中心にのつて居らず、足の内側にかゝりすぎること、外側にかゝり過ぎるかの爲である。或は歩く方向が内輪になつたり、外側を向き

過ぎてゐる場合運動の力に對して損失をしてゐる事になる。又膝の關節を伸ばし切らずにチョコ／＼と小跨に歩いたり、前こむみの姿勢で脊を圓くしたり、陰鬱に下ばかり見て歩いたり。永い習慣で自身何とも感じないが、合理的でも美的でもない。

さて以上の様な意義を有する歩行に於て、之の訓練は、他の多くの様、訓練と同様、固くなつた大人に於ては良い効果をおげる事は困難であつて、身心發育の途上にある幼児の中から特に留意されなければならぬ事柄であらう。従つて特に之を幼児の中から取扱ひ度いと思ふのである。が、幼児に理論になつた理想的な歩行は要求出来ない事であるから、正しい歩の性格を自覺した上で、訓練と言つても、こゝでは極めて遊戯的に取扱つてみたいと思ふのである。

それに就ては、彼等の身體能力及素質を考へ、身體に過勞を來したり、發育の障礙になる事の無い様、漸次的發展的に行ひ、又一時の思ひつきによるのではなく、何度も反覆して繼續的に行ふ事にする。一例を擧げる。

一、行ふ場所に就て

室内でも勿論結構であるが、出来れば戶外がよい。それは比較的新鮮な空氣と日光を受けるから。歩くとき云ふ自然的運動形式と自然的環境を背景とする點に於て優れた保健體育法となるからである。

一、隊形

縱隊、横隊、圓形何れでもよいが、最初は一列縱隊が容易である。成るべく直線上を歩く。次第に曲線より圓形に移る。室内ならば、室の端から端まで往復するとか、室の形に沿つて廻る。戸外の場合もお庭の端から端まで往復する外、遊具の間や樹木の間を縫つて歩き、あらゆる地形地物を利用する。隊形の變化は氣分をも轉換する事になるから、往きは一列、歸りは二列三列になると云ふ工合にする。綺麗な圓形を作る事もむづかしい事であるから、何回も左右に交互に廻り、或は圓心を向いて、圓の内外の出入にする。連手すると又むづかしい。或はうづ巻を作つてもよい。先頭から順々にうづ巻を巻いて、そのまゝ方向を變へて、うづ巻をほごいたり、反對に廻れ右をして最後

の者から出て來たり。

一、音楽と共に

行進の際の音楽は一段と歩行に生氣を與へる。町を歩いてゐる時、何處からか行進曲でも聞えてくると、忽ち爽快な氣持になり、足どりが軽くなる。沈思行ではとても耐らない。何時の間にか兩手が踊り出し、前後の者に向つて活動を開始する。

ピアノ、オルガン、蓄音機、その他太鼓等の打樂器に合せる。又は各自拍手をする。行進歌を歌つて調子をつけると云ふ事にする。

一、歩き方のいろ／＼

『正常歩』之は前に述べた通り、普通に歩いてゐるものである。たゞ之だけて颯々と歩いても結構であるが、少し變化をつけて歩いてみよう。お庭を見ると綺麗なお花が咲いてゐる。「さあ皆さんもこの様なお花を作りませう」と指を開き兩掌を合せ、お花の形を作りながら歩く。お庭根を雀が飛んで行つた。「雀さんになつてお羽を擴げて歩ませよう。」兩臂を横に擧げ、上下に振つて歩く。鳥小屋には鳩が

ある。小鳥もゐる。「クツ／＼可愛い鳩さんと一緒に歩きませう」。両手を後に伸ばし上體を前屈して歩く。暫く豆を食へながら休息、元氣になつたら又續ける。

次は「ガア／＼おひるよち／＼ひよつこらしよ」體を全屈して足首を持ち、よち／＼歩く。體を起してぐんとそると、青空高く日の丸が、ひるがへつてゐる。日の丸の旗の様にひら／＼と両手を上に舉げて左右に振つて歩く。

次に正常歩に對するものに特殊歩と云ふのがあり、擧股歩、踏歩、急歩、大跨歩等を包括する。正常歩の構成に必要な諸々の要素は是等の修練によつても修得する事が出来る。ところで之も亦遊戯として取扱つてみる。

『擧股歩』之は股を上體の姿勢が崩れない範圍で水平以上に擧げるものである。歩調は正常歩の時と變らないが、歩幅が心持ち狭くなる。「お山へ登りませう。高い所ですから一歩々々膝を高く擧げて下さい」。従つて両手も大きく振れてくる。

『踏歩』一歩々々を強く地床に踏付ける事に依つて膝關節を伸ばして歩く方法で

ある。踏みつける事にのみ注意すると、膝が伸びないから、踏むと共に、その力に依つて膝を伸ばす様留意する。「兵隊さん、歩調をとつて元氣よく歩きませう。」「鐵砲を持ちます」「擧手の敬禮をしながら歩きませう。或は二、四拍子の曲に合はせ、何拍子目かに特にアクセントをつけて強く踏む事にしてもよい。

『急歩』歩長を正常歩の場合と同一に保ちつゝ、速度を早くして歩くのである。駆足の時の様に肘を屈げて臂を振ると歩き易い。「飛行機になつて早く買けない様にとびませう」「用意ドン」で、向ふの樹木を一廻り。競歩にいたします。

『大跨歩』歩幅を廣めて大跨に歩く歩法である。之は股關節の前後への開かりを擴大し、可動性を増す爲の用意となる。歩幅の廣さに相應して臂の振れも大きくなる。

「廣く！ 廣く！」幾人か宛一列横隊に開かせ、或地點まで何歩で歩けるか、出来るだけ 少い歩數で歩ける様競争する。歩の適當な實踐を行ふ時、是等の運動は

總體として非常な分量の運動ではあるが、運動の一つ一つは極めて樂なものである。即ち、歩一歩は、強い脚筋に對し殆んど取立て、言ふ程の緊張を與へないが、それが繰返される事に依り、充分な運動となる。又普通に行はれる場合は、胸廓を固定する事もなく、呼吸を妨げる事もない。その一々は極めて容易な運動であるが、寄り合つて強い運動を與へる事になる。

こうして身體は向上し、全身支配の能力が高められてゆくのである。歩きませう！ 歩きませう！

おことはり

用紙節約のため、六號活字を用ゐて居りますので、雜誌の頁數が以前より減じましたが、内容に於てはちつとも減じて居りませんことを御諒承下さいませ

(編輯係り)

七月の園藝

— 幼稚園夏休の用意 —

大 岩 金

一、花壇

ダリーヤは休暇前に地際から三、四十纏位で脇芽の出て居る所で切つておく。かうしておくミ秋にはこの芽が立派な枝になり、夏咲のものより一層美しい花が見られる。

草花の種子の出来たもので前月採り残りのものは早くミり、多年生のもので花の終つたものは花軸を地際の所で切取つておこなぎ花後の始末をつけておく。

菊、コスモス、サルビヤ等の芽先を摘んで少しでも多く枝を出させるやうにしておく。

秋咲のもので今成長盛りの草花には周りの雑草をミり、休暇前に一度施肥しておきたい。

又花後の始末をした空いた花壇には灰を撒いて、軟かく耕しておき、九月になつて直ぐ播種の出来るやうにしておく。

その他

垣根の朝顔、ルコウサウ等、垣根の高さにミミしたものを

の先をミめておく。

二、鉢植に就て

各幼児持の鉢植は休暇中はなるべく家庭へ持ち歸らせて世話をさせたいものである。その爲に是等の鉢植にも一回施肥をする。鉢の周囲を淺く堀つて液肥の稀いものを入れ、又土を元の通りに均しておく。

幼稚園に残しておく鉢植は地に下して差支へないものになるべく鉢から抜いて地植にするミ大方の場合灌水せずミすまされる。九月になつて又入用なものは鉢のまゝ地に埋めておくのも一つの方法で、これでも餘程乾燥を防ぐ事が出来る。

又日除を造るミか、小使室の近くに寄集めて灌水のし易いやうにしておこなぎ色々の用意をしておがねばならぬ。

朝顔の鉢

鉢植の朝顔は行燈仕立の外は蔓を常に切つて短かく作るのが普通である。蔓の摘み方一例をミす。

最初の蔓に葉が數枚出て、それから次へ次へ出る葉の脇にまだ蕾が出来ない場合には、この蔓のなるべく下の方の脇芽の丈夫な所まで切返す。そしてこの脇芽を第二番蔓として伸ばして行く。この蔓が次第に伸びて葉を數枚つけた時にはたいてい次の葉腋からは蕾が出来るやうになる。一度蕾が出来ればそれより後は葉腋毎に蕾が着くのである。この蕾は一本の蔓には數個にきりめて先をさめる。

一方又この蔓のなるべく下の方の脇芽の丈夫なものを一芽丈次の豫備蔓として伸ばし、他の芽は全部元からかきさる。そして前の枝の開花が終つたならば、豫備蔓の元ので切りさる。

もし採種しやうと思ふ時はそのまゝさす。

豫備蔓の蕾も數個にきりめ先をさめ、前同様の方法で第二の豫備蔓を作るのである。かく開花する蔓を豫備蔓と二本宛を出させ、後は常に摘みとり徒に蔓の繁茂する事を制限して行く時は、永く比較的大輪の花を咲かせる事が出来るのである。

三、野菜畑

收穫

馬鈴薯がお休前に收穫出来る。莖葉が少し枯れかけて来たのを適度さして掘る。馬鈴薯は薯が淺くはいつてゐるのので幼兒の掘るのには好都合である。移植鏝があれば一層ら

くであるが、砂場用の杓子でも差支へない。

先づ一株宛地上部の莖を引張れば薯が離れて容易に抜ける。次に土を除く。少なくとも一株に數個、多い時は十個位ごろ／＼出て来る。貯藏するやうな場合には晴天續きの後で掘らない薯が早く腐敗する。

菜豆も莢の固くならない中に早く收穫するがよい。しかし來年の種子用にはなるべく早く早くなつたものの方がよいやうであるから残しておく必要があり、最近は殊にこのやうな豆類、薯類の種子は入手し難いのであるから、自家用位は残しておくやうにした方がよい。

四月播のソバも收穫出来る。

茄子、トマトの收穫も始まる。

手入れ

蔓有の菜豆は引續き長く收穫が出来るので時々追肥(灰類を多く)をする必要があるが、蔓無の方は早く收穫が終るから、終り次第株を抜き、休暇になる迄にはその後へ、手のかゝらないツルギのやうなものを播種するか、苗を植付けておくやうにする。

茄子、トマトには乾燥を防ぐため藁、又は實のない草を根元の周りに敷いておく。

トマトの脇芽摘みは休暇中も續けなければならぬので、此頃から時々依頼する小使に手傳はせて方法を心得さ

せておきたい。

里薯も乾燥を好まないものであるから敷藁をしておく方が安全である。

日除用のヘチマ、トウナス、インゲン、レイシなぎ支柱にそつてゐないものはそはせてくくりつけ早く柵にのぼらせるやうにしておく。

花壇と同様に野菜畑にも今成長盛りのものには休眠前には非追肥を忘れないやうにせねばならない。

四、夏の雑草

畑仕事をする者が常に悩まされるのは雑草である。少し油断をするさすぐ所かまはず繁茂する。わけて春先から夏にかけては多い。

幼稚園で利用出来さうなものもかなりある。「系統的保育案の實際」の中にあげてある、ヒルガホ、ツユクサ等はその一例である。ツユクサはさほご擴がるものでないから、差支へのない限り残しておく事にしやう。

ヒルガホは花が朝顔に似て朝顔の花のしぼんでしまつた眞晝に垣根なごに二、三輪咲いた所は可愛らしく、晝の材料にもなり、すて難いものゝ感じがする。しかし是の繁殖力は實に旺盛なもので、蔓の伸びる事はいふまでもなく、地下莖のはびこる事も甚だしく至る所に擴がつて行き節々に根を下すので、わずかに二、三穂を地中に残しても

容易に活着し、やがて芽を出して來るのである。このやうに、地下の部も、地上の種子に依つて忽に増えて行く。

尙垣根や、他の植物に纏りついたものは容易にこれないのでは出來得る限り早く取除かなければいけない。

その外害虫の宿所となり易いイタドリ、スギナ、種子の飛び易い、ツメクサ、カタバミ、或はカヤツリグサ等種々雑草が茂るが、休眠前には一通りきれいに總掛りで除草しておきたいものである。その位にしておいても新學期の九月迄には充分庭の蟲の宿る草原にはなり勝なものである。

抜いた草の始末

ヒルガホ、イタドリ、スギナなぎ地下莖の始末のわるいものや、ツメクサ、カタバミなぎのやうに種子の飛び易いものは共に是等は早く乾かして焼いた方がよい。後の灰は直ぐ畑に入れて片付けておく。

種子のないもの、根の浅いものは目障にならない所に堆積して、少し水か下肥をかけた上に土を覆うておけば容易に腐熟し肥土が出来る。尙草のみを積まないで苺に敷いた敷藁の取り除いたもの、花後の始末をしたもの、常緑樹の刈込をしたものなき取交せて堆積すれば、水分の多い草花や、草のために藁は早く腐り、草のみ積んだものより藁、木の葉の交つたものゝ方が一層よい肥土が得られるので兩得になるのである。

各地幼稚

園だより

大阪市立御津幼稚園

富はま子

一、沿革の概要

本園は明治十八年に御津清水校保育課として、設置せられました。明治二十二年十月南區御津幼稚園といふ名稱になつて御津小學校内に設置せられる様になり、更に明治二十六年四月に御津幼稚園と改稱せられました。明治二十二年から今日迄既に五十四年の歳月を経過いたしました。その間數回移轉改築増築等がありました。現在の園舎は昭和九年關西の大風水害の災に逢ひましたのを昭和十三年三月から改築起工に著手いたしました。同十三年十二月竣工し、十四年三月に落成いたしましたものであります。

一、位置、大阪市南區三ツ寺町三五番地

一、園舎、敷地坪數は凡そ五百二十坪

建坪凡そ百八十九坪、木造スレート葺二階建て採光通

風良く色彩明朗な近代的園舎であります。

一、園兒數、凡そ二百名

一、組數、組別

組數は七組

組別は年齢別で生年月日順

一、職員數、園長一、保母八、衛生婦一、使丁四、

一、保育料、月額壹圓「全市共通」

一、母の會、特に母の會はありません。後援團體で御津之會といふものがあり會員は父兄であります。會費一ヶ月部内は八拾錢郊外は壹圓參拾錢であります。然しこの會の中で園の諸儀式行事費の補助をいたします。又必要に應じ母の會保護者會修養會、鍊成會研究等をいたしその費用を支辨いたします。

一、が家庭との聯絡機關になります。

一、保育について

保育方針は既に定められて居ります。大阪市の保育方針に従つて行つて居ります。(別紙參照)

1、教育に關する勅語の御趣旨に基き保育の全般に互つて皇道を修練せしめ國體に對する觀念を深めること。

2、善良なる性情の涵養を健全なる心身の育成に務めること。

「殊に身體の健康に留意して榮養と衛生に注意し給食の施設をなせる事」

3、家庭及び社會との聯絡を緊密にし家庭教育の改善をはかること

4、保育は生活に即して具體的實際的にすること等

大變抽象的なことを申しましたが、日々幼児が登園いたしましたら、朝の挨拶、所持品の仕末、履物の仕末等いたさせまして含嗽をさせ、用便の躰、後朝會をいたします。朝會は最も嚴肅に集合、整列を正しく、宮城遙拜及び黙禱、朝の挨拶、訓話、等をいたしました後に幼稚園體操、「大阪市で作つたもの」歩行練習をいたします。その後肝油給與、室内保育、屋外保育、手洗、晝食「給食」いたします。御飯は家庭から持参させ副食物だけ幼稚園で作ります。食後の含嗽、自由遊で歸宅準備等各幼稚園で行ひます行事大差ありません。

最後に大阪の子供は商業地の子供であるだけに利害の觀念に誠に敏感でありますから、保育方針の第三項に示してあります新産業道の樹立云々といふ事を幼児の時から注意し公益優先の念を養はねばならないと存じて居ます。

大阪市の保育方針

- 一、國體の本義に基き皇民道德の萌芽を啓善すべし。
- 二、興亞の理想に則り、剛健なる心身の基礎的鍊成に努むべし。

三、大阪市の使命に鑑み新産業道の樹立に必要な精神の育成に留意すべし。

四、家庭との聯絡を緊密にし家庭教育の改善をはかるべし。

宮城女師附屬幼稚園

木村 豊 女

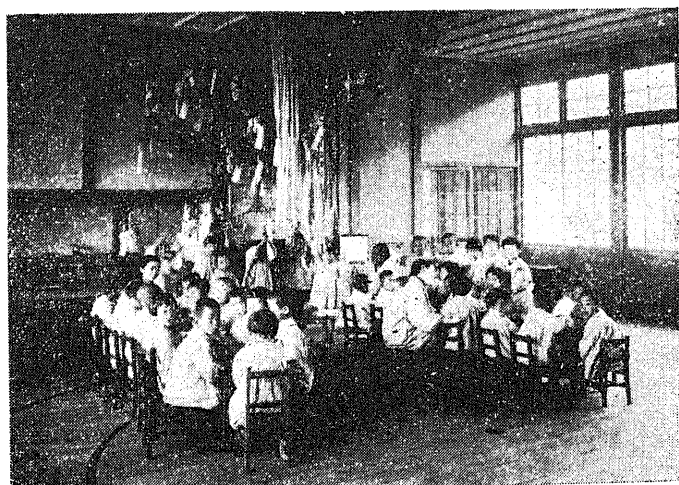
○當幼稚園の所在地

附屬幼稚園の所在地中島丁は青葉城址の近く水清き廣瀬川のほとりにあつて閑靜なる住宅街でございます。

昭和十一年四月十五日創立され職員數三名、現在園兒數八五名、一ヶ年保育の年長組一組、二ヶ年保育の年少組一組に編成、保育料一圓五拾錢、母の會費年額五圓五十錢

○保育方針

大きな時代の廻轉と共に幼児教育の目標が新しくならなければならなくなりました。日本精神で新しい世界を牽るるに先づ其の前提として、東亞の建設を目指すこの時代に、是までの様な甘い育て方は許されないので。日本精神に則り幼いながらも皇國民としての鍊成をするに共に常に勤勞を喜ぶ精神を養ふために作業教育を熟しねばり強きまで實踐してゐます。この正しい秩序ある習慣を養成することは心身の健全な發達を促しやがて第二



○保育の實際
 の天性が生れるこゝを信じます。

一、毎日集會の始めに宮城のお寫眞に對し奉り敬虔なる

氣持にて最敬禮をなし戰歿勇士の冥福を祈り皇軍將士の武運長久を祈願のため默禱をなす。

二、週一、同月曜日に國旗を掲揚す(國民學校と共に)。

三、週一度本校及び國民學校と共に一齊に清掃作業をなす(小石拾ひ、庭掃き、床の乾布拭き等)。

四、四大節は國民學校と共に合同にて舉行す(時には本校と共に)これは幼きものなり、雖戰時下の今日、ある一定の短時間飽くまでも嚴肅なる態度をこらしめ度いこの意圖に基づくものである。

○母の會の事業

幼稚園教育に家庭の協力が如何に重要なかはその任にあるものゝ熟知のこゝである。當幼稚園の特色ともいふべき母の會は、この幼稚園創立と共に保護者八木ゆう氏を會長として設立されたのであります。八木氏は園の内容充實を目的として率先して後援のために勞を惜しまれず年毎に隆盛に赴き創立當時を思へば轉た今昔の感にうたるゝものがあります。次に母の會の事業を申述べます。

- 一、入園を許可したる後入園式前に保護者會を開き幼稚園の主義方針規約書類を配布一層認識を深めて協力を依頼す。
- 二、幹事は十名を選び期間を一ヶ年とす。
- 三、これ等の幹事はその都度集合相談したる事を各會員とす。

共に實行に移し、四大節、誕生會、行事の子供會の際には涙ぐましいまでの御骨折にてお世話下され此上もなく幼児たちを喜ばせてくれます。

四、毎月一回修養、講演、講習會を開き修養につとむ。

五、參觀日にはお母さんの來園を乞ひ幼児各々の問題につき懇談す。

六、「幼児の母」は各家庭に配布育児の資料をす。

七、家庭に聯絡園児の疾病につきては當園の看護婦によつて太陽燈治療を施行す。

○同窓會

同窓會は毎年四月三日神武天皇祭日を期して開催す。殆んき全部の修了生が附屬國民學校生徒なるを以て、六年生が各學年を指導して會の進行を圖り、仲々に面白き案を作り議長、國民學校先生たちをお招きしてお話なきをも伺ふ。尙ほ本年は創立以來始めて中等學校に男女の修了生を送りだしたる事にて同窓會もさりわけ盛會に行ひたり。

○遺兒の保育

昭和十四年九月以降戦歿勇士未亡人たちのために宮城特設國民學校訓導養成所が開設され、毎年十名内外の遺兒を保育することに成り、午前中は幼稚園兒と共に遊ばせ、午後よりは特に周到なる心づかひを以て午後四時まで保育す。

日かげ

子どもには一ぱいの日なたと共に、靜かな日かげも與へてやりたい。

夏の日が強くなるに、木の葉が繁つて涼しいかげをつくつて呉れる。自然はなんこいふこまかな心づかひに、やさしいいたはりに行届いてゐることにあらう。勵ましと共にいたはりを忘れぬ。引き立てる共に慰はせることを忘れぬ。

日盛りの中を馳けまはつて、その廣い明るい光線に、ぐんぐん活氣をあほり立てられてゐる子どもが、ふき、涼しい木かげに来て、につこりこ、なごやかな顔を見せることがある。

日なたがなければ子どもは生きない。しかしまた、日なたばかりでも子どもは生きられない。日なたに生き、日かげにかばはれて生きる子どもではある。

わたしたちも、子どものために、一ぱいの日なたとなると共に、よき日かげにもなつてやりたいものだ。

——倉橋惣三著「育ての心」より——

兒童心理學 (第五講)

牛 島 義 友

精神發達の段階

前數回に於て精神發達の條件として、環境や性別の問題を説いたが、今回からは精神發達自身を問題として行きたい。其の爲に先づ精神發達の輪廓を示し、發達の骨組なるものを明かにしておきたいと思ふ。

子供の心は毎日少しずつ成長してゐて、其間に段階を立てる事は困難な様ではあるが、大局から見ると、相當顯著な段階を區別する事が出来る。此段階を學者等は色々な名前と呼んで居るが、私は其の主要特徴から、身邊生活、想像生活、知識生活、精神生活、社會生活時代と言ふ名稱を用ひて居る。又其の精神發達の原理としては主觀と客觀との辨證法的發達と言ふ事を考へてゐるが、是等について簡単に説明しよう。

身邊生活時代 先づ生れてから三、四年間の子供の生活

を見るに、其の生活の範圍は極めて狭く、其のなす處は主として日常生活的なものである事が特に目立つてゐる。

先づ子供の生活する空間を考へてみるに、最初の數ヶ月は寢具の上に横になつて居るだけで、時に他處に連れて行かれる事があつても、それは全く受動的であつて、自身で積極的に動き出す事はしない。否目の前にあるガラ／＼に手を出して掴む事さへしないのである。五ヶ月頃から手を出して掴む様になれば嬰兒の生活空間は急に擴大したと言つてよいし、自ら這つて行つて取る様になれば、更に其の生活空間が廣くなつたと言へる。併しそれでも彼等の動く範圍は部屋の中、家の中であつて、極めて狭い。二三歳の子供でも一人では中々他處へ遊びに行かうとしない。家の庭か、前の路に一寸出るが、直ぐ親の居る家の中に歸らうとする。

次に時間的に眺めても、子供の生活は短く、現在の、

瞬間的な生活を送つてをる。眼前にある玩具やお菓子を見て欲しがつたり、お腹が空いたさか、おしつこをするさか、睡いさか其の時々の要求に驅られて行動してをる。子供は昨日の事を想ひ出したり、明日の事を豫想する様な事は出来ない。前日に餘程變つた事、例へば動物園に見物に行つた場合でさへ中々其事を想ひ出して話しをする様な事はしない。まして去年の事や、來年或は將來の事を考へるならん言ふ事は満三歳以下の子供には考へられない。

斯の様に幼兒達は狭い家の中で生活し、其の時々に興味や要求のまゝに生活してゐる。即ち其の生活範圍は極めて狭い言ふ事が出来る。此の狭い世界で何をしてをるか言へば毎日々々飽かずに同じ事を繰返して居る。即ち朝起きてから一騒ぎして食卓につき、遊んだり、お汁をこぼしたりし乍ら食事をさり、次には玩具を次々こ一通りいじつて遊び、お八つ、お晝食、午睡、遊戯も同じ様な事をして一日送つてをる。其の間に何處か排泄の行事で親の手を焼かせる。即ち彼等の生活は自分の生存に直接必要な食事、排泄、睡眠と遊びに終始してゐる。斯る日常的な自分一個の身邊的な生活が此の第一時代の大きな特徴である。

想像生活時代 處が満四歳頃になるさ急に生活範圍が擴大して來る。大概の子供は一度位迷子になる事があらうが、其の年齢は四五歳頃が多い。今までは家の周圍でだけ遊

んでゐたのが、少し遠出する様になる。隣の通りまで遊探險に出かけたり、そこで何か變つたもの、紙芝居やチンドン屋等を見るさ、面白さの餘り其の跡をつけ、遂に迷子になつてしまふ事がある。即ち彼等の生活空間が擴がつて來た爲に迷子にもなるのである。

又此の頃の子供は友達と遊ぶ様になる。今までは母や祖母或は兄弟だけで遊んでゐたのが、近所の子供とさきりに遊び度がるし、又友達の家に出かけて行つて時間を過ごす様になる。之も亦彼等の生活範圍の擴大を意味する。

更に又彼等の時間的世界が廣く遙かになつて來る。今までは目の前にある玩具さか犬さかによつて興味が惹起されてゐたのが、この頃になるさ、眼前にないものについても色々想像して楽しむ様になる。此の變化の主な原因は言語の習得にある。言葉は不思議な魔力を持つて居る。何も無い壺から色々なものを引出してみせてくれる。言葉を使はない嬰兒は犬が目の前に現れないさ、犬について何か聯想したり、想ひ出す事はない。處が言葉を解する様になるさ、犬と言ふ言葉を聞いただけで犬について想ひ出し、色々考へる事が出来る。現實に犬が居なくても自由に想像する事が出来る。即ち言葉は現實の制約から離れて、自由に觀念の世界、想像の世界に舞ひ上る事を可能にする。初の内は言葉も不自由であり、従つて大した想像も動かない

が、満四歳位にもなるに、其の言語生活は極めて豊富になり、自由に色々な話をする事が出来る様になる。斯うなるに其の想像の世界も極めて廣いものになって来る。此の頃の子供はお話をしきりに聞き度がる様になる。それまでは子供にお話をしてやらうと思つても、語彙が不足してをる爲に仲々話が困難であるし、又少し善い話は全然理解出来ない。處が此の頃になるに、大人のお話も相當に理解出来る、お伽噺なら夢中になつて傾聴する。

或は又子供は一人で色々を相手を想像して遊ぶ様になる。例へばお人形に色々話しかけて、お客様ごつこをしたり、想像の友達を作つて、一人言を言ひ乍ら遊んだりする。又一般に此の頃の子供は何々ごつこ言ふごつこ遊び、模倣遊び、想像遊びをして楽しむ。

是等のお伽噺や模倣遊びに就ては現實世界の約束を無視して、自由に想像の翼を擴げておる。例へば人が動物に話しかけたり、否人が動物になつたり、動物が人間と同じ生活をしたりする事も出来る。斯る想像の世界に生きておるのが、此の頃の特徴である。

前の身邊生活の時代は現實の要求に従つて泣いたり、喜んでたりしてゐたのが、今や觀念の世界で遊ぶ様に變つて來た。即ち前の世界は客觀の世界であつたのが、主觀の世界に轉じて來た。而して之は一つの發展である。何故なら、

今までは狭い不自由な生活、現在の、瞬間的な生活であつたのが、廣い世界に出て、自由に色々な世界を探險し、駆け廻る事が出来る様になつたから。

知識生活時代 想像生活は一段進歩したものと云つたが、之が完全な態度でない事は言ふまでもない。非現實的な主觀的な態度は正しい現實の認識や、解決は與へられない。空を鳥の様に飛んでみたいと言ふ慾望が起つた時に、想像的態度では背に羽が生えて飛び立つたを考へたり、帯にまたがつて呪文を唱へるを空を飛べたりする。斯る空想的な解決の仕方では物事は實際には解決されない。空を飛びたければ物理的理法にかなつた飛行機を製作して、それを一定の方法で操縦しなければならぬ。即ち物事を解決するには空想や自分一個の想像ではなしに、現實に則した科學的方法によらなければならぬ。即ち想像生活はもう一段の發展をしなければならぬ。

此の發達を促すものは學校教育である。子供自身でもお伽噺が長く信用は出來なくなる。帯にまたがつて空を飛べなんて實際に出來るのだらうかを疑問を持つ様になるであらうし、學校の先生は更に、そんな事は出來やしない。お伽噺なんて嘘の話だ、架空の世界だを教へ込む。此の學校の知識教育によつて子供の興味は空想の世界から、現實の世界に呼び戻される。此の現實の世界と言ふのは自動車が

疾走したり、飛行機が飛んだり、軍艦が戦争をしたり、或は鳥が卵を生み、雛が育つて行く自然界、即ち理科の世界、自然科学の世界である。子供達は自然界に於ける驚異す可きもの、素晴らしいものを異常な興味を持つて眺める様に変つて来る。彼等は何故電車が走るかを知り度がるし、自分でも一つ動かしてみたいとの強い熱望を懐く様になる。玩具の電気機關車を組立てるのに夢中になつたり、ゼンマイ仕掛をのぞかうとして壊してみたり、昨今の様に斯る玩具が無くなるこゝ、圖解された繪本等を熱心に讀む様になる。其の他動植物の採集等にも興味が湧く、子供は元來トンボ捕が好きであるが、若し適當な指導を受けるこゝ立派な昆蟲採集をやる事さへ出来る。

其の他讀物等も科學讀物を好む様になるし、物語や小説にしても自動車や飛行機を操縦して偉い事を爲出かす冒險小説等を受讀する様になる。

斯る知識生活は國民學校三年頃から始まり中等二年頃まで續いておる。

又知識生活時代の他の特徴は學校に於ける社會生活である。子供達だけの世界は案外に眞剣な、生存競争の激烈な世界である。保姆や先生達は子供を保護し、指導して下さるが、子供同志はお互に競ひ合ひ、仲良く遊んでるかと思ふこゝ、たちまち喧嘩を始め、其の場合には無遠慮に相手の

缺點をあげて悪口する。吃りだこか目からだこ言つたり、或は親の低い職業を輕蔑したり、子供のやつた失敗を無遠慮に暴露したりする。斯る目に會ふこゝ子供は非常にくやしがり、負けるこゝ知り乍ら相手に掛つて行つたり、氣の弱い子供はすつかりいぢけ込んでしまふ。

此の子供同志の社會生活、力の相剋によつて彼等の性格が構成されて来る。即ち前の時代の自己中心的な生活、想像の友さ楽しく過ごすのではなく、現實的な社會生活によつて其の性格が鍊成されて来るのである。

斯る意味で知識生活時代は現實的な時代、客觀的な時代であるこゝ言ふ事が出来る。

精神生活時代 さて以上で子供が大人になつたこゝ早合點されては困る。幼児はやうやく少年になつたばかりである。知識生活は立派な生活態度の様ではあるが、未だノ、何か物足りない。がさ／＼した生活である。電車の知識が増し、巧に操縦出来たこゝして、それが何にならうか、高々電車の運轉手でないか、之で人生の發達が停つたこゝしたら人生の意義も疑はしくなる。さうだ此の人生の意義等に就いて思索し、煩悶する時代が次に現れる。

今まで子供は専ら肉の目で自然界の驚異をのみ眺めてゐた。而も教師から教へられ、書物で讀んだ知識だけで見つてゐた。何處にも未だ自分こゝ言ふものが無い。凡ては借物で

ある。自分の知識、自分の考へ方が必要になつて来る。自然の事を色々勉強する眞の目的は、之によつて自分の世界觀を樹立する爲でなければ意味がない。併し世界觀の樹立の爲には自然界のみを見てたのでは餘りに偏狭である。何か重大な見落しがある事に氣付いて来る。勿論子供達には斯る論理を追つて考へておる譯ではない。併し何か物足りなさが感じられて来る。少年達は生理的成熟の結果、親にも教師にも簡單に打開けられない心配事を持つ様になる。又精神的成熟の結果、もう子供でないのだ。大人扱ひにしてもらひたいものだとの要求が起つて来る。然るに大人達はまだ子供のくせにさか、此の頃は生意氣になつて來た等と評して、まごもに取上げてくれない。それで少年達は此の氣持を理解してくれる友、語り合ふ事の出来る親友を求めて来る。此の友への惚れ、満されぬ淋しさ、孤獨の憂愁、友愛の歡喜等を経験する様になる。斯る世界は凡て肉の目でなく、心の目で見られる世界であり、而も前の自然界に比して數層倍心をゆり動かし、魂を昂揚させるものである事に氣付いて来る。彼等は精神の世界、人格の世界を發見したのである。

斯くて彼等は今まであんなにも興味を持つてゐた理科の書物も見棄て、しまふ。其の代りに友情を描く物語、人生を説く小説、或は宗教、哲學を求め、藝術に慰を得んむ努

める様になる。

又其の社會生活も少年期の様に大勢の者互に張り合ふ生活ではなく、群衆から離れた孤獨の世界、心から信賴出来る少數の友とのみの親愛の交り、愛情の世界へ變化して来る。

斯る青春の憂愁と歡喜の世界こそ青年期である。而してそれは主觀に沈潜し、自我を發見する時代である。

社會生活時代 青年期は如何に美しいものであるにせよ、併し尙未完成の時代である。自我を發見出來ても未だ社會を認識してゐない。餘りに唯我獨尊的である。眞の人生、與へられた分を守り、少しでも國家、社會に貢獻するには人は主觀の象牙の塔から街頭に出なければならぬ。詩の世界を高踏的に彷徨ふ代りに、人々協力して鳥を作り、仕事をし、子供を生み育て、行かねばならない。職業とか結婚等の社會的現實的生活に入つて始めて人として完成して来る。

大東亞戰爭必勝完遂

幼児の 母



昭和十七年
六月

健康第一

子どものためには、何んといつても、健康第一です。心身一體の健康が眞の教育の本旨ですが、先づ基礎となるものは、身體の健康でせう。殊に幼児期に於て、身體の健康を第一として、工夫も、努力もしてゆかなければなりません。

教育となると、なんだかこゝろのことで、智慧とか技能とか、偏り重んぜられる風があるのですが、少くも幼児期の教育では、そういうことは第二としていふことでせう。況して、そういう方面を主にするために、假りにもからだの健康を害ふやうのことがあつたら許されぬことです。誰れだつて、そんなことをすることは無い筈ですが、識らず、そんな結果が少しでも伴ふやうのことは、細心に注意しなければなりません。

幼稚園で、なるべく多くの時間、幼児を室外に出して遊ばせるのも、日光と空氣と殊に運動とによる健康を増してゆきたい爲です。そのために多少腕白になつても、いたづらしても、日にやけても、そんなことは大目に見ませう。着物がよこれたり、やぶれたりする位、氣にしてゐられませぬ。

家庭、幼稚園協力で、日本の子どもを、強くしませう。

幼稚園から

○なんといふいゝ季節でせう。子どもを着物も軽くなりました。むき出しの皮膚に、直射の日光を與へることも容易になりました。といつて、まだ眞夏の炎熱でもなし、ほんとうに、子どもの外遊びの最好時です。

○お子さんの服装を出来るだけ簡單にして下さい。幼児の國民服をつくることしたら、さんなのがいゝでせうか。運動第一と、洗濯に便利なことでせう。うんと運動して、うんと汗をかいて、うんとどろんこになつて、それでゐて、始終清潔にしてゐられることです。餘計の飾りひだや派手ではげ易い色模様や、洗ふとすぐ型の崩れるしやれ仕立なんか禁物です。

○心を用ゐられると思ふと、こつてりとおとな好み。かまわなしいと思ふと、不潔なむし好み。子ども好みではない。

教 育
講 話

こもだちどうし

倉 橋 惣 三

□前の號で、幼稚園の楽しさの一つとして、遊び相手のゐて呉れることを數へて置きました。實際、これが、あの楽しい家庭でも得られない、幼稚園でこそ楽しいさせよう。

□さて遊び相手のゐて呉れることは、たと楽しいだけではありません。そこには、いろ／＼と、かけがへのない教育上のねうちがあるのです。

□その一は、ともだちどうしは、ものゝ見方、感じ方が同じであるために、一切の興味が、ひとりでもつよりも強められてゆくことです。若しも、自分と見方感じ方の方向も程度も異つてゐるおとなばかりの中に置かれてゐるとしませう。子どもの興味は、反對され、しりぞけられ、おさへられることはないとしても、助けられ、強められてゆくことはありま

せん。そんなものはつまらない。そんなことはうれしくもない。と口へ出して言はないにしても、同じ心を添へあふことはない譯です。一匹のどんぼにしても、みんなで追ひまわすところに、ひとりで見つめるにくらべて、如何に興味の強められることませう。

□幼児が互に話をしてゐるのを聞いてゐると、賛成しあつてゐる時でも、反對しあつてゐる時でも、眞剣に、むきに、熱中しきつてゐる様は、まことに、ほゝえましい以上のものであります。おとなは決して、こうした力強い話あひは出来ません。おとなの方では話をあはせて呉れても、あはせて呉れ、ば呉れる程、子どもとしては一生懸命になれないのです。

□その二は、ともだちどうしは、力のぶつかりあひが一ぱいに出来ず。そこ

榮 養 本 位 養 子 供 向 き お 菜

厚生科學研究所
國民榮養部 佐々木理喜子

梅雨の頃になりました。毎日の御辨當がいたみ易くなりますので次の點を氣を付けて下さい。

- (1) おさいは成るべく水氣の少ないもの
- (2) 前日の煮物は必ず一度煮直すこと
- (3) 御飯とおさいは、兩方とも冷して入れるか、或は兩方共、あつたい内に入れること。
- (4) 生の野菜を入れぬこと。

【1】馬鈴薯のピーナツ和へど煮干の佃煮
材料 馬鈴薯四〇瓦 人參二〇瓦 ピーナツバタ四瓦 煮干一二瓦 以上で蛋白質八・〇瓦 温量二〇八カロリー

作り方 馬鈴薯と人參は程よく切り、軟く煮て薄味を附けます。ピーナツバタを、この煮汁で少し溶き、野菜を和へます。汁氣はなるべく少く、煮干は小さいのを用ひ一匹を二つにして濃味に、カラ／＼に煮附けます。以上を御辨當の中へつめ

で、力も盛り上つて来ることです。おとなは、相手をするために相手をするので、すから、謂はど、その力です。そのう、その力とぶつかつても、ほんどうの力の出よう筈はありませぬ。おとなはそうして、子どもを導き出そうとしてゐるので、結果は却つて、半分しか出させないことにもなりません。

□子どもが互に角力をしてゐる時、子どもが互に馳けつくらをしてゐる時、その真剣の様子は、見てゐても、おそろしい程です。多分、子ども自身としても、自分で思はない程の力が出るのでせう。そして、一回毎に、力が強められてゆくといつていゝのです。

□その三は、ともだちどうしは、助けあふ心も起り、助けあふことも出来るのです。幼い子どもに、斯うした心はないものゝやうに思ふ人もあるかも知れませんが、決してそうではありません。おとなよりも、却つてその心が豊なのですけれども、それを引出すのに相當な相手が

ゐないから出ないのです。又、相手が自分以上のものであつては、その心が出て、も實際には行ひ得ないのです。それが、幼い同志、子どもらしい心づかひでも、子どもらしい仕方でも、それがちやんとした助けあひになります。

□子どもが互に、助けあふといふも大げさですが、やさしい心な分けあつてゐるのを見ると、これも少し大げさに言へば、涙ぐましいといひたい位です。一寸小さいけが、でもする子があると、いいたいのに「泣かないのね」といつた顔をのぞかせてゐます。落したものを、拾つて渡してやつたりしてゐます。そのことは何んでもないことですが、心は一ぱいの助けあひなのです。同情の表しあひなのです。おとなからは受けるばかり、従つて、受け足りないの不満をこゝ感じますが、又、受けることの喜びは感じますが、與へる機會は得られません。

□以上、たつた三つ方面を見ただけでも、ともだちどうしの教育力は、大きいではありませんか。

ます。

2、キャベツと干海老の炒煮

材料 キャベツ五〇瓦 人參二〇瓦 干

えび一八瓦 油五瓦 以上で蛋白質八・三

瓦 温量一〇二カロリー

作り方 キャベツと人參は縦に刻み油で

よく炒め、少々のお湯を加へて煮ます。

砂糖、醬油で味を普通に附けます。干え

びはきれいに水洗ひしてから野菜の中に入

入れ、一緒にしてカラ／＼に炒ります。

【3】そら豆のロール(お入つ)

材料 そら豆(剥いたもの)三〇瓦 砂糖

七瓦 メリケン粉二〇瓦 ベーキングパ

ウダー少々 以上で一五八カロリー

作り方 そら豆を茹で皮をとり、潰して

餡を作り砂糖を加へてかた目に煉りま

す。メリケン粉にベーキングパウダーを

入れて、フライパンで皮を焼き、此の中

にそら豆餡を入れて巻き、程よく切りま

六月の衛生 醫學博士 齋藤文雄

□六月。この月から鬱陶しい梅雨の季節に入ります。毎年幼稚園に通つてゐる位の年齢のお子さんが澤山赤痢や疫病でやられるのもこの季節からです。この雨が無ければ田植も出来ないのでですから考へ様によつては有難い時候です。しかし衛生上から見ますとさうでもありません。皆さんの御家庭では御準備如何ですか。

□梅雨時に困りますのは雨が多いため濕氣が強いといふ事です。しかも六月は一年の中で一番日の長い時であり、光線も強い時ですから氣温はのぼり勝ちであります。温度と濕度と一緒に上がる。これが非常に困る事なのです。この季節には身體のすべての機能が大變悪くなりますから、普段なら何とも無い事が刺戟となつて病氣をしがちであります。

□濕氣が多いと黴菌はどん／＼繁殖いたします。汗をかいてもさらつと乾かない皮膚、さういふ所は直ぐ黴菌が見つけて巢をくひます。とかく穢れ勝ちなお子

さんの皮膚は綺麗にいたしませう。着物はどうですか。ここに肌着はさつぱりしたものを着せなければいけません。

□水溜りが出来ますとお子さんは大欣びで遊びます。遊ぶのは結構ですが水溜りの水は流れてくるどきに一緒にその邊の穢ないものを流して参りますから餘り綺麗なものではありません。遊んだあとは直ぐ手を綺麗に洗つておかなければなりません。よごれた手でその儘物をたべたりしますのはお行儀の悪い子です。

□萬一陽が射しましたら、たとひ五分でも十分でもいゝですから日に乾しませう。何を乾しますか。お母さんを、お子さんを、着物を、蒲團を、そうして、どまつてゐる黴菌を皆な殺してしまひませう。

□一番氣をつけなければならぬのは喰べものですね。古いものをたべさせてはいけません。ソーセイヂ等はあぶないですよ。それから生のものを與へる事も危険があります。なるべくよく煮たり焼

いたりいたしませう。

□それよりも氣をつけなければならぬのは喰べさせ方ですね。あれこれと絶えず口を動かしてゐる様なお子さんはありませんか。これ迄は兎に角、梅雨どきから夏にかけては、こんな癖はよく無い事です。梅雨に入る前にきちんといふ癖をつけなければいけません。蒸暑い時は消化器の働きはわけても弱る時なのでですから、出鱈目をしますと直ぐお腹へ來ます。やがて兵隊さんになつて飛行機にのるんでせう。そんな強い坊やが、お入つて我慢位出来ない筈はありません。わけても晩の御飯のあとは決して物をたべない良い子になりませう。

□お寢相のわるいお子さんは寢冷えなします。寢る時は東向きでしたのに朝は西向き等珍らしくありません。そんなお子さんはお腹だけよく巻いても寢冷えします。それは足が冷えるからです。ですから本當に寢冷えを防ぐにはお腹から下は足先迄冷さない様にいたします。

× × × × × × × ×

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 下村 壽一
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三
 附屬幼稚園主事 倉橋 惣三

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 - 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
 - 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 會長 一名 會務ヲ總理ス
 - 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 - 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 - 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ヲ諮詢ニ應ズ
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

會ノ開催

- 一、雜誌發行(毎月一回)
- 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
- 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
- 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

定規文注

一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。
 一、(郵券代用の場合は)は「割増」
 一、御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帯封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

不許複製 禁止轉載

編輯者 倉橋 惣三
 發行所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 倉橋 惣三 常
 柴山 則
 杏 林 舍

發行所 日本幼稚園協會
 振替口座東京一七二六六番
 東京市小石川區大塚町三十五
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

定價

一ヶ月分	金參拾五錢	特等面一頁	二等面一頁
半年分	金貳圓拾錢	金貳拾五圓	金拾五圓
一年分	金四圓貳拾錢	金貳拾圓	金拾圓
拾貳冊送	料共	廣田區一ツ橋三ノ七品田	廣告社に御申込下さい

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)
 昭和十七年五月二十八日印刷納本
 昭和十七年六月一日發行
 幼兒の教育 第四十二卷 第六號

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
(毎月一回發行)

昭和十七年五月二十八日印刷納本
昭和十七年六月一日發行

定價參拾五錢

キンダーブック改題◇月刊幼兒繪雜誌◇

觀察繪本 ミクニノコドモ

お子たちの保育に—時代は要望する



幼稚園に託兒所に家庭に、幼兒保育の重要な一役を擔ふ繪本を。

明るい面白さ、正確で健全な繪本を「強い日本」の「強い子」の爲に。

大東亞共榮圈確立の逞しい指導的意慾を盛つた、力強い繪雜誌「ミクニノコドモ」を。

觀察繪本「ミクニノコドモ」の編輯は次の陣容を整備してゐる。

- 倉橋惣三先生、岸邊福雄先生、清水良雄先生、西條八十先生、小松耕輔先生、三田谷啓先生、
- 西村真琴先生、及川ふみ先生、小川正道先生、和田實先生、高崎能樹先生、土川五郎先生、久保良英先生、久留島武彦先生、赤羽吉子先生、關寛之先生其他十數氏。

館育保本日 社會式株

本社 東京・神田・保町二丁目 電話(33) 三六八二番
大阪 東區・後備町五丁目 電話(24) 一八九三番